

丹波篠山 青山会文庫所蔵

『祠部職掌類聚・祠部職掌雜纂』 目録 (続)

藩法研究会 丹波篠山班

橋本 久
牧田 勲
山田 勉

凡例

一 この目録(続)は、兵庫県篠山市教育委員会所蔵の青山会文庫のうち、『祠部職掌類聚・祠部職掌雜纂』四四八冊(うち目録四冊)を対象とした「目録」(前稿)末尾に収める予定であつた目録四冊の全文を紹介するものである。

一 付1として、目録1『祠部職掌類聚・同雜纂目録』の全文を掲載し、備考として、そのうちの「雜纂」を明示し、また冊数に異なる場合は現在の冊数、さらに内閣文庫本との対照結果を補記した。付2として、目録2『祠部 御觸書目録』の全文を掲載し、21「御觸書」との照合結果をもとに補訂

料

した。下段に備考として、御觸書寛保集成・寶曆集成・天明集成との対応関係を示した。

資

一 付3として、目録3『御觸書総目録』の全文を掲載した。下段に備考として、それぞれに対応する「御觸書寛保集成」「御觸書寶曆集成」「御觸書天明集成」を対照のために付3―1、3―2、3―3として示した。便宜上、番号を付した

一 付4として、目録4『祠部職掌類聚 地方凡例録惣目録』の全文を掲載した。88「地方凡例録」との直接的関係は未詳である。仮番号を付した。

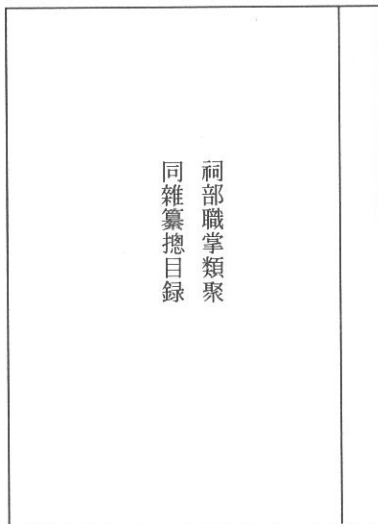
一 その他については、前稿凡例に記した通りである。
一 本稿の作成にあたり、資料の閲覧・整理・複写・翻刻等に全面的な御協力をいただいた畑 治男氏を初めとする青山歴史村の職員の方々と篠山市教育委員会の関係者各位に深謝する。

一九九九年四月

付1 祠部職掌類聚・同雑纂總目録

〔表紙〕

〔祠部／目録／1〕



〔本文〕

壹番

宝曆十一巳年より
明和 九辰年迄

1 一 三奉行留

三拾五冊

(縦26.8cm 横19.8cm)

『祠部職掌類聚・祠部職掌雜纂』目錄(續)

2	一 同	拾貳冊 〔一才〕	*現一三冊	10	一 神主之部	壹冊 〔二才〕
3	一 堂上方 御朱印之部	貳冊			明和元申年より 同 八卯年迄	
4	一 寺社御條目	壹冊	*内閣文庫本 第二冊	11	一 相談書	拾四冊 *現一五冊
5	一 諸寺社御條目類	貳冊	*内閣文庫本 第一冊 (二冊のみ)		貳番	〔二ウ〕
6	一 諸寺院 御朱印 御條目	壹冊	*内閣文庫本 第九冊	12	一 相談書	貳拾六冊 *現二四冊
7	一 金地院由緒書	壹冊 〔二ウ〕				
8	一 知恩院 _江 尊牌御廟等 御安置御由緒初筆	壹冊		13	一 同 天明元丑年より 同 八申年迄	九冊
9	一 小石川白山社記初筆 親王門跡方 御判物御黒印御朱印 有之	壹冊		14	一 同 寛政四十年より 同 十年年迄	拾四冊 〔三才〕
					内四冊仮綴	

料

資

15 宝曆九年
一 吟味書

壹冊

16 明和二年より
同 八卯年迄
一 吟味伺書

七冊

17 安永元辰年より
同 九卯年迄
一 同

九冊
〔三〇〕

18 天明元丑年より
同 八申年迄
一 同

八冊

19 進達留
一 吟味書
御仕置伺

壹冊

20 明和七寅年中
一 御仕置伺書

壹冊

〔四〇〕

21 三番
一 御触書

四番

〔四〇〕

*現六四冊

21 御触書
一

五番

22 諸門跡系譜
一

壹冊

*〔雜纂〕

23 同御續書
一

壹冊

*〔雜纂〕

24 諸寺院住職任官之部
一

式冊

*現一冊
*〔雜纂〕

25 緑山記事
一

壹冊

26 網代乗物
一

式冊

『祠部職掌類聚・祠部職掌雜纂』目録(続)

33	32	31	30	29	28	27
一	一	一	一	一	一	一
菜種綿実御触書拔	邪宗門一件被 仰出書拔	寛永年中 御書付留	享保十四年より 寛保元酉年迄 寺社方御書付留	享保三戌年 五山公帖願一件	足利学校書籍目録	五山碩学一件
壹冊	壹冊	壹冊	五冊	壹冊	壹冊	壹冊
		〔六才〕 *〔雜纂〕			〔五才〕	
41	40	39	38	37	36	35
一	一	一	一	一	一	一
寺社方支配	寺社奉行支配之者 由緒書	寺社奉行支配之部	寺社諸覚	寺社方大概	時習大概	見聞集
壹冊	三冊	壹冊	壹冊	壹冊	六冊	六冊
	*内閣文庫本 第二・三冊 (二冊のみ)		*内閣文庫本 第三冊	*内閣文庫本 第一三冊		〔六才〕 *〔雜纂〕
						御清之儀ニ付被 并伺書写 仰出
						壹冊

資		料	
48	一 享保十九寅年より 寛保 二元酉年迄 相對勸化差免留	老 冊	
47	一 御触書 享保十五戌年より 寛政 二元酉年迄	老 冊	
46	一 寺社勸化一件 享保二酉年より寛政二戌年迄	老 冊 〔八才〕	
45	一 寺社加役内留帳 元文四未年	七 冊	*内閣文庫本 第五・六・七冊 (三冊のみ)
44	一 寺社并遠国町人 御礼御暇之部	老 冊	
43	一 御連歌御会之部	老 冊 〔七ウ〕	
42	一 寺社門前地	老 冊	

56	一 火事之部	老 冊	
55	一 日光御門跡之部	老 冊	
54	一 増上寺方丈之部	老 冊 〔九才〕	
53	一 両本願寺之部	老 冊	*西本願寺の誤り
52	一 同新役被 仰付候部	老 冊	*内閣文庫本 第四冊
51	一 寺社奉行被 仰付候部	老 冊	
50	一 開帳差免留	式 冊 〔八ウ〕	*内閣文庫本 第八冊 (二冊のみ)
49	一 江戸町中勸化留 享保二戌年より 延享三年迄	老 冊	

『祠部職掌類聚・祠部職掌雜纂』目録(続)

62	61	60	59	58	57
一 寛政二戌年 淑姫君様 御宮参一件	一 碁将棋之者之部	一 市ヶ谷八幡奉納鑑記 多田権現神宝目録	一 證明院様御霊所 心観院様新御廟 焼失一件	一 東叡山三 御霊屋焼失一件	一 浄圓院様御霊牌所 御本坊焼失一件
壱 冊 * [雑纂]	壱 冊 [二〇乙]	壱 冊 * [雑纂]	壱 冊	壱 冊	壱 冊 [九乙]
71	70	69	68	67	66
一 宗号一件	一 同御寄付帳	一 葵御紋付之品一件	一 雑之部	一 紅葉山東叡山増上寺 氷川山王雑之部	一 尊牌御廟等 御安置御由緒
壱 冊	壱 冊	七 冊 [二一乙]	壱 冊	壱 冊	壱 冊 [二〇乙]
					65
					一 寺社由緒書
					壱 冊
					64
					一 天台宗寺院御由緒書
					壱 冊
					63
					一 宮門跡方貸附金一件
					壱 冊

料

資

72 一 黄檗萬福寺派下
寺院本末帳

壹冊

73 一 虚無僧一件

壹冊

74 一 盲僧一件

壹冊

75 一 永平寺隠居後住並
龍穩寺後住一件

壹冊
*「雜纂」

76 一 王子稻荷額之儀糺一件

壹冊
〔二〇〕

77 一 同額之儀一件

壹冊

78 一 新吉原町仮住居
場所糺一件

壹冊

79 一 宝曆十一巳年
公家衆増上寺參堂之式

壹冊

80 一 檢校一件

貳冊
*「雜纂」

紅葉山

81 一 東叡山御參詣之部
増上寺

三冊

82 一 黄檗山万福寺住職一件

貳冊
*「雜纂」

83 一 伺書留書拔

貳冊

84 一 進達留

貳冊
〔二〇〕

85 一 寛政五丑年より
同十年迄
廻し書付留

三冊
*「雜纂」

86 一 御赦伺帳并申渡留共

五冊
*1・3・4・5
「雜纂」

87 一 寺社例聚

六冊
*2・6「雜纂」

88 一 地方凡例録

拾冊
〔二〇〕
*現三組各十冊

『祠部職掌類聚・祠部職掌雜纂』目録(続)

98	一	跡式 主人師匠殺 書拔	
97	一	書籍類御仕置并 御書付類	壹冊 〔二四ウ〕
96	一	掟背無取上赦免 虚説在牢 書拔	壹冊
95	一	直目安論所書拔 田畑 海道	壹冊
94	一	内寄合之部	壹冊 *〔雜纂〕
93	一	御定書懸り之部并 諸書付留共	貳冊
92	一	評定所一座申合并覚書	壹冊 〔二四オ〕
91	一	評定所之部	壹冊
90	一	評定所書拔掟背	壹冊
89	一	地方聞書大概	壹冊

106	一	同伺無之裁許之部	貳冊
105	一	評定所公事伺之上 裁許之部	貳冊 〔二五ウ〕
104	一	御裁許状留 享保十三申年より 同 廿一辰年迄	壹冊
103	一	上州勢多郡徳河郷与 武州榛沢郡中瀬村 国境論一件	壹冊
102	一	不受不施宗一件	壹冊
101	一	謀書謀判	壹冊 〔二五オ〕
100	一	隠売女一件	壹冊
99	一	黄紙書拔	貳冊
		人勾引 諸請 稼業	壹冊

113	112	111		110	109	108	107
一	一	一		一	一	一	一
曹洞宗無銘訴狀一件	高利金吟味一件	享保十九寅年より 寛延二巳年迄 一座廻シ物留	七番	同吟味伺之上御仕置 申渡留	同伺無之裁許之部	手限吟味伺之上裁許 之部	内寄合公事伺無之 裁許之部
壹冊	壹冊	五冊 *現四冊	〔六乙〕	貳冊	貳冊 〔六乙〕	貳冊	壹冊

120	119	118	117		116	115	114
一	一	一	一		一	一	一
御法事御書付留	御法事一件	年中寺社之部	評議留帳 安永八亥年	甲州大塚村清岩寺 大坂御池通四丁目中村 久三郎代荒木與兵衛	下総国大塚戸村正專寺 甲州大塚村清岩寺 濃州時山村百姓共	佐州波多大法寺一件 佐州 ^佐	伏見町人九助外老人 驅込訴一件
壹冊	壹冊	壹冊 〔二七乙〕	壹冊 *〔雜纂〕	一件 壹冊	一件 壹冊	壹冊 〔二七乙〕	壹冊

124	123	122	121
一 進達留並御供養出書付留	一 御靈屋御普請紅葉山 御靈屋御修復御用一件	一 浚明院様御新葬 御法事一件 但進達留並納経御礼願等共	一 孝恭院様御新葬 御法事一件
天明七末年 浚明院様御廟御建繼	天明七末年 東叡山新御廟向	天明六午年 浚明院様御新葬	安永八亥年 孝恭院様御新葬
三冊	壹冊	拾八冊 *現一六冊	拾三冊 *現二冊 *3・6・7・11 「雜纂」
二八乙			
129	128	127	126
一 蓮光院様一回御忌 御法事一件	一 孝順院様御新葬一件	一 心觀院様廿一回御忌 御法事一件	一 乘臺院様御新葬一件
寛政四子年	寛政五丑年	寛政三亥年	安永二巳年
蓮光院様一回御忌	孝順院様御新葬一件	心觀院様廿一回御忌	乘臺院様御新葬一件
壹冊	三冊 *現二冊	壹冊	三冊 *「雜纂」
	二九乙		二九才
125			
一 大猷院様正外 遷座 浚明院様御靈牌御安置 但御供養一件下組共	同年 紅葉山		
貳冊			

135	一 増上寺 御宮御靈屋御廟 尊牌等書上帳	老冊 *現・欠本
134	一 紅葉山 御宮御内陣並御幣殿 御道具類	老冊 [三〇七]
133	一 瑞巖院様御新葬一件 寛政九巳年	式冊
132	一 麗玉院様御新葬一件 寛政十年年	式冊 *「雜纂」 [三〇八]
131	一 棲真院様御新葬一件 寛政九巳年	式冊 *1「雜纂」 [三〇九]
130	一 乘臺院様十三回御忌 三百部御法事一件 天明四辰年	老冊

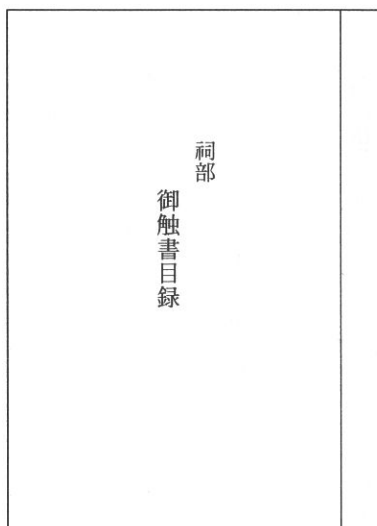
136	一 紅葉山上野増上寺 御宮御靈屋御莊嚴向 献備物並御別当其外 勤方帳	老冊 *現・欠本 [三二〇]
-----	--	----------------------

付2

祠部 御触書目録

〔祠部／目録／2〕

〔表紙〕



(縦27.4cm 横19.8cm)

〔本文〕

御触書目録

巻

〔祠部／21／1〕

一 武家諸法度之部

慶長二十卯年七月より
享保二酉年三月迄

*寛保集成一

2

一 御條目之部

寛永九申年九月より
寛保元酉年八月迄

*寛保集成一

3

一 殿中席書并御長屋門
中之口掛札等之部

万治二亥年九月より
延享元子年六月迄

〔二才〕

*寛保集成一

4

一 武家諸法度之部

延享三寅年三月より
同年 五月迄

*寶曆集成一

5

一 御條目之部

宝暦元未年十一月

*寶曆集成一

6

一 殿中席書并御長屋門
中之口掛札等之部

延享三寅年六月より
宝暦十辰年三月迄

〔二乙〕

*寶曆集成一

式

〔祠部／21／2〕

7

一 高札之部

寛永十四年七月より
享保十一年年正月迄

*寛保集成一

8

一 関所之部

元和二辰年八月より
享保十一未年二月迄

*寛保集成一

三

〔祠部／21／3〕

9 一 禁裡御吉凶之部

寛文九酉年閏十月より
元文五申年三月迄

*寛保集成三

〔三才〕

10 一 同

延享四卯年三月より
宝暦五亥年十二月迄

*寶暦集成二

四

〔祠部／21／4〕

11 一 定式御祝儀等之部

寛永二十未年八月より
正徳六申年六月迄

*寛保集成四

12 一 同

享保元申年七月より
寛保三亥年十月迄

*寛保集成五

〔三才〕

13 一 定式御祝儀等之部

寛保四子年正月より
寛延元辰年八月迄

*寶暦集成三

14 一 同

寛延二巳年四月より
宝暦九卯年四月迄

*寶暦集成四

五

〔祠部／21／5〕

15 一 臨時御祝儀等之部

寛永二十未年正月より
正徳二辰年十二月迄

*寛保集成六

16 一 同

正徳三巳年正月より
享保十九寅年六月迄

*寛保集成七

〔三才〕

六

〔祠部／21／6〕

17 一 臨時御祝儀等之部

享保二十卯年四月より
寛保三亥八月迄

*寛保集成八

18 一 同

寛保四子年二月より
延享二丑年十二月迄

*寶暦集成五

七

〔祠部／21／7〕

19 一 御法事并鳴物停止等之部

寛永二十一申年正月より
正徳元卯年六月迄

*寛保集成九

〔三才〕

『祠部職掌類聚・祠部職掌雜纂』目録(続)

25	一	御朱印御判物御感状等之部	延享二丑九月より 宝曆九卯年九月迄	*寶曆集成十三 (寛保集成 十四欠)
24	一	御上洛御社参等之部	寛永十四年三月より 享保六丑年四月迄	*寛保集成十三
23	一	御朱印御判物御感状等之部	寛文五巳年三月より 寛保三亥年十月迄	*寛保集成十三
	九		〔祠部／21／9〕 〔四才〕	
22	一	同	享保十八丑年正月より 寛保三亥年二月迄	*寛保集成十二
21	一	御法事并鳴物停止等之部	享保三戌年三月より 同十七子年十月迄	*寛保集成十一
20	一	同	正徳三辰年四月より 享保二酉年四月迄	*寛保集成十
	八		〔祠部／21／8〕	
	十		〔祠部／21／10〕	
26	一	御社参之部	延享二丑年 ^{〔五〕} 月より 宝曆九卯年四月迄	*寶曆集成十三 〔四ウ〕
27	一	御成之部	慶安二丑年十二月より 元文元辰年十一月迄	*寛保集成十五
28	一	御女中様入御出御等之部	宝永五子年八月より 享保十六亥年五月迄	*寛保集成十五
29	一	御門番勤方之寛	万治三子年十二月より 寛保元酉年十月迄	*寛保集成十五 〔五才〕
30	一	御成之部	延享元子年九月より 宝曆八寅年七月迄	*寶曆集成十四
31	一	御鷹方之部	宝曆三酉年八月より 同 四戌年十二月迄	*寶曆集成十四

32	一	御女中様入御出御等之部 延享元子年九月より 宝曆五亥年十一月迄	*寶曆集成十四
33	一	御門番勤方等之部 延享二丑年正月より 宝曆六子年七月迄	*寶曆集成十四
十一			
34	一	御城内外供廻等之部 寛永二十未年十月より 寛保元酉年八月迄	*寛保集成十六 〔五乙〕
35	一	参勤交替之部 元禄十四巳年四月より 享保二十卯年十月迄	*寛保集成十六
36	一	乗物之部 延享九酉年五月より 元文二巳年四月迄	*寛保集成十六
十二			
37	一	礼服之部 宝永三戌年十一月より 享保二十卯年六月迄	*寛保集成十六
38	一	衣類之部 正徳五子年二月より 享保六丑年四月迄	*寛保集成十六
39	一	御城内外供廻等之部 延享二丑年二月より 宝曆八寅年四月迄	*寶曆集成十五 〔六才〕
40	一	参勤交替之部 延享元子年六月より 同 五辰年六月迄	*寶曆集成十五
41	一	乗物之部 延享五辰年四月より 宝曆八寅年四月迄	*寶曆集成十五
42	一	礼服之部 延享四卯年四月	*寶曆集成十五 〔六乙〕
43	一	衣類之部 延享元子年九月より 宝曆九卯年閏七月迄	*寶曆集成十五
十二			
44	一	抱瘡麻疹水痘等之部 延宝八申年十一月より 寛保元酉年八月迄	*寛保集成十七
45	一	忌服穢等之部 貞享二丑年九月より 元文四未年九月迄	*寛保集成十七

『祠部職掌類聚・祠部職掌雜纂』目録(続)

52	一 儉約之部	寛永十七辰年正月より 寛保三亥年二月迄	*寛保集成十九
51	一 諸役人并組支配勤方等之部	延享二丑 ^{〔七〕} 正月より 宝暦十辰年二月迄	*寶暦集成十六
50	一 養子跡目縁組等之部	延享二丑年十二月より 宝暦九卯年十一月迄	*寶暦集成十六
49	一 忌服穢等之部	延享三寅年九月より 寛延三年九月迄	*寶暦集成十六
48	一 疱瘡麻疹水痘等之部	寛保四子年正月より 宝暦四戌年正月迄	*寶暦集成十六
47	一 諸役人并組支配勤方等之部	寛永十二亥年十一月より 寛保三亥年十一月迄	*寛保集成十八
46	一 養子跡目縁組之部	寛永十 ^{〔五〕} 午年十二月より 寛保二戌年六月迄	*寛保集成十八
59	一 風俗之部	寛延二巳年五月より 同 三年巳 ^{〔五〕} 年八月迄	*寶暦集成十七
58	一 藝術之部	延享四卯年四月	*寶暦集成十七
57	一 御褒美之部	延享四卯年四月より 宝暦九卯年十月迄	*寶暦集成十七
56	一 儉約之部	延享三寅年十二月より 宝暦九卯年十月迄	*寶暦集成十七
55	一 風俗之部	明暦二申年二月より 寛保三亥年八月迄	*寛保集成十九
54	一 藝術之部	正保三戌年六月より 寛保三亥年四月迄	*寛保集成十九
53	一 御褒美之部	享保二酉年十一月より 寛保二戌年五月迄	*寛保集成十九

十三
〔祠部／21／13〕

十四

〔祠部／21／14〕

料	60 一 御鷹方之部	貞享四卯年二月より 寛保二戌年十月迄	*寛保集成二十
資	61 一 殺生之部	元禄五申年九月より 元文二巳年十二月迄	*寛保集成二十
	十五	〔祠部／21／15〕	〔九才〕
	62 一 寺社之部	万治二亥年十一月より 寛保二亥年九月迄	*寛保集成二十一
	63 一 宗旨之部	寛永十二亥年九月より 享保三戌年十一月迄	*寛保集成二十一
	64 一 祭礼之部	慶安二丑年六月より 享保七寅年九月迄	*寛保集成二十一
	65 一 宗旨之部	延享二丑年二月より 宝暦八寅年五月迄	*寛保集成二十
	66 一 祭礼之部	延享元子年六月より 宝暦九卯年五月迄	*寛保集成二十
		〔九ウ〕	
	67 一 道中筋之部	延享二丑年六月より 宝暦八寅年三月迄	*寛保集成二十
	68 一 道中筋之部	寛永二十未年二月より 寛保三亥年八月迄	*寛保集成二十二
	十六	〔祠部／21／16〕	
	69 一 諸国巡見之部	寛文四辰年八月より 享保元申年八月迄	*寛保集成二十三
	十七	〔祠部／21／17〕	〔二〇才〕
	70 一 御代官江被仰渡之部	寛永十九午年五月より 寛保三亥年四月迄	*寛保集成二十三
	71 一 諸国巡見之部	延享二丑年十月より 同年閏十二月迄	*寛保集成二十一
	72 一 御代官江被仰渡之部	延享九子年五月より 宝暦九卯年七月迄	*寛保集成二十一
		〔二〇ウ〕	

『祠部職掌類聚・祠部職掌雜纂』目錄(續)

[illegible]

料	85	一	普請作事并上水道等之部 延享元年四月より 宝暦五亥年七月迄	*寶曆集成二十四
資	86	一	御切米御足高被下金拝借 并上納等之部 延享元年三月より 寛延四年九月迄	*寶曆集成二十四
		廿二	〔祠部／21／22〕	
	87	一	御切米御足高被下金拝借并 上納等之部 寛永二十未年二月より 寛保十巳年五月迄	*寛保集成三十
			〔一三才〕	
	88	一	同 享保十二未年三月より 寛保二戌年十二月迄	*寛保集成三十一
	89	一	御切米御足高被下金拝借并 上納等之部 宝暦元未年十一月より 同 十辰年二月迄	*寶曆集成三十五
		廿三	〔祠部／21／23〕	
			〔一三才〕	
	90	一	金銀之部 寛文五巳年三月より 享保二酉年十二月迄	*寛保集成三十二
	91	一	同 享保二戌年閏十月より 寛保三亥年九月迄	*寛保集成三十三
	92	一	銅錢之部 寛永十五寅年五月より 元文四未年五月迄	*寛保集成三十三
		廿四	〔祠部／21／24〕	
	93	一	米穀之部 延宝九酉年正月より 寛保三亥年二月迄	*寛保集成三十
			〔二四才〕	
	94	一	升秤之部 承應二巳年閏六月より 寛保三亥年十一月迄	*寛保集成三十四
	95	一	諸職人之部 明暦元未年八月より 元文五申年七月迄	*寛保集成三十四
	96	一	金銀之部 延享元年六月より 宝暦九卯年八月迄	*寶曆集成二十六
	97	一	米穀之部 延享元年十一月より 宝暦六子年十一月迄	*寶曆集成二十六

『祠部職掌類聚・祠部職掌雜纂』目録(続)

103	102	101	100	99	98
一	一	一	一	一	一
唐物并唐船等之部	書籍并板行等之部	葉種之部	唐物唐船之部	諸職人之部	秤之部
延享三寅年三月より 宝曆六子年十月迄	天和四子年四月より 元文六酉年正月迄	寛文六午年九月より 寛保三亥年十一月迄	寛文八申年三月より 寛保二戌年十一月迄	延享三寅年三月より 宝曆十辰年二月迄	寛保四子年二月より 宝曆九卯年九月迄
*寶曆集成二七七	*寛保集成二三五	*寛保集成二三五	*寛保集成二三五	*寶曆集成二六六	*寶曆集成二六六
		〔二五才〕			〔二四ウ〕
109	108	107	106	105	104
一	一	一	一	一	一
武士屋敷之部	辻番之部	酒造たはこ作等之部	諸商賣之部	書籍并板行等之部	葉種之部
寛文七未年十月より 寛保二戌年三月迄	寛文元丑年九月より 享保十二未年十一月迄	万治元戌年十二月より 正徳五未年十月迄	慶安元子年四月より 寛保三亥年閏四月迄	延享元子年八月より 宝曆四戌年十一月迄	延享元子年二月より 宝曆九卯年十二月迄
*寛保集成三八	*寛保集成三八	*寛保集成二七七	*寛保集成二六六	*寶曆集成二七七	*寶曆集成二七七
	〔二六才〕			〔二五ウ〕	
			廿六		
			〔祠部／21／26〕		
				廿五	
				〔祠部／21／25〕	

料

110 一 諸商賣之部
延享元子年三月より
宝曆十辰年二月迄

*寶曆集成二十八

資

111 一 酒造之部
宝曆四戌年十一月

*寶曆集成二十八

112 一 武士屋敷之部
延享二丑年七月より
宝曆九卯年四月迄

*寶曆集成二十八

廿八

〔祠部／21／28〕

113 一 町屋敷之部
慶安四卯年二月より
享保十七子年六月迄

*寛保集成三十九

114 一 店借地借等之部
明曆二申年十二月より
元文元辰年六月迄

*寛保集成三十九

115 一 飢人御救并施養養生所等之部
貞享四卯年正月より
寛保元酉年十月迄

*寛保集成三十九

116 一 町屋敷之部
延享二丑年閏十二月より
宝曆九卯年十一月迄

*寶曆集成二十九

117 一 奉公人之部
寛保四子年二月より
宝曆七丑年四月迄

*寶曆集成二十九

118 一 日雇稼もの之部
延享元子年九月より
宝曆四戌年四月迄

*寶曆集成二十九

119 一 廻船并川船等之部
延享二丑年六月より
宝曆六子年二月迄

*寶曆集成二十九

120 一 御堀并所々橋塵芥捨場等之部
寛保四子年正月より
宝曆九卯年閏七月迄

*寶曆集成二十九

廿九

〔祠部／21／29〕

121 一 奉公人同宿出居衆之部
寛永十六卯年二月より
寛保三亥年十月迄

*寛保集成四十

122 一 日雇稼者之部
承應二巳年九月より
寛保三亥年七月迄

*寛保集成四十一

『祠部職掌類聚・祠部職掌雜纂』目録(続)

129	128	127	126	125	124	123
一 公事訴訟并借金買懸等之部	一 御仕置者之儀三付被仰渡之部	一 鉄炮之部	一 御仕置者之儀三付被仰渡之部	一 御堀并所々橋塵芥捨場等之部	一 廻船川船之部 ^{〔五等〕}	一 乞 ^{〔物もらい〕} 非人之部 ^{〔定〕}
延享元年五月より 宝曆九卯年七月迄	延享二丑年二月より 宝曆九卯年八月迄	正保二酉年六月より 享保十四酉年二月迄	寛永十七辰年正月より 寛保元酉年七月迄	慶安四卯年十一月より 寛保二戌年十月迄	寛永十五戌年五月より 寛保二戌年十一月迄	寛文十二子年二月より 享保九辰年九月迄
*寶曆集成三十	*寶曆集成三十	*寛保集成四十三	*寛保集成四十三	*寛保集成四十三	*寛保集成四十二	*寛保集成四十一
三十						
〔祠部／21／30〕						
〔一八才〕						
135	134	133	132	131	130	
一 歌舞妓并居遊女野郎 比丘尼等之部	一 相撲躍鞠小哥等時行事之部	一 町駕籠并牛馬車之部 ^{〔等〕}	一 質田畑并小作等之部	一 公事訴訟并借金買掛等之部	一 御仕置者之儀三付被仰渡之部	
正保二酉年七月より 元文五申年閏七月迄	慶安二丑年七月より 寛保三亥年六月迄	承應四未年三月より 寛保三亥年十月迄	寛永二十未年三月より 元文二巳年二月迄	正保三戌年三月より 寛保三亥年十一月迄	延享二丑年二月より 宝曆九卯年八月迄	
*寛保集成四十六	*寛保集成四十五	*寛保集成四十五	*寛保集成四十四	*寛保集成四十四	*ママ 128 重複	
三十一						
〔祠部／21／31〕						
〔一九才〕						

料	<p>136</p> <p>一</p> <p>花火之部</p> <p>寛文十戌年七月より 寛保元酉年七月迄</p> <p>*寛保集成四十六</p>
資	<p>三十二</p> <p>〔祠部／21／32〕</p>
137	<p>一</p> <p>盜賊之部</p> <p>寛永十六卯年十月より 寛保三亥年六月迄</p> <p>*寛保集成四十七</p>
138	<p>一</p> <p>博奕之部</p> <p>承應四未年三月より 寛保三亥年十二月迄</p> <p>*寛保集成四十七</p>
139	<p>一</p> <p>捨子之部</p> <p>元禄三年十月より 享保十九寅年九月迄</p> <p>*寛保集成四十七</p>
140	<p>一</p> <p>狼藉者之部</p> <p>慶安二丑年七月より 寛保二戌年七月迄</p> <p>*寛保集成四十八</p>
141	<p>一</p> <p>異説之部</p> <p>元禄二巳年十月より 寛保二戌年九月迄</p> <p>*寛保集成四十八</p>
142	<p>一</p> <p>御尋者并かたり事等之部</p> <p>慶安元戌年三月より 寛保三亥年十一月迄</p> <p>*寛保集成四十八</p>
143	<p>一</p> <p>牛馬車等之部</p> <p>延享二丑年五月より 宝暦八寅年六月迄</p> <p>*寶暦集成三十一</p>
144	<p>一</p> <p>躍時行事之部</p> <p>延享元子年六月より 宝暦六子年七月迄</p> <p>*寶暦集成三十一</p>
145	<p>一</p> <p>隠賣女之部</p> <p>延享三寅年正月</p> <p>*寶暦集成三十一</p>
146	<p>一</p> <p>花火之部</p> <p>宝暦五亥六月より 同 九卯年五月迄</p> <p>*寶暦集成三十一</p>
147	<p>一</p> <p>盜賊之部</p> <p>延享四卯年十月より 宝暦十辰年二月迄</p> <p>*寶暦集成三十一</p>
148	<p>一</p> <p>異説之部</p> <p>延享三寅年五月より 宝暦二申年六月迄</p> <p>*寶暦集成三十一</p>
149	<p>一</p> <p>御尋者并かたり事等之部</p> <p>延享元子年四月より 宝暦八寅年十月迄</p> <p>*寶暦集成三十一</p>
150	<p>一</p> <p>殺生之部</p> <p>宝暦二申年八月</p> <p>*寶暦集成三十一</p>

『祠部職掌類聚・祠部職掌雜纂』目録(続)

156	一 琉球人参府之部	寛延元辰年閏十月より 宝暦二申年十二月迄 〔二二ウ〕 *寶曆集成三十三
155	一 朝鮮人来聘之部	延享三寅年九月より 同 五辰年七月迄 〔二二ウ〕 *寶曆集成三十三
154	一 琉球人参府之部	寛文十一亥年七月より 享保三戌年十一月迄 *寛保集成五十
153	一 朝鮮人来聘之部	承應四未年三月より 享保四亥年十月迄 *寛保集成五十
	三十四 〔祠部／21／34〕	
152	一 雑之部 同断	延享元子年四月より 宝暦十辰年三月迄 〔二二ウ〕 *寶曆集成三十二
151	一 雑之部 但内目録有之	正保五子年二月より 寛保三亥年十月迄 *寛保集成四十九
	三十三 〔祠部／21／33〕	
161	一 御法事并鳴物停止等之部	延享元子年四月より 同 三寅年七月迄 *寶曆集成八
160	一 同	宝暦十一巳年正月より 同 十二午年十二月迄 *天明集成三
159	一 臨時御祝儀等之部	宝暦十辰年正月より 同 年 十二月迄 〔二二ウ〕 〔祠部／21／36〕
	三十六	
158	一 同	宝暦六子年二月より 同 十辰年三月迄 *寶曆集成七
157	一 臨時御祝儀等之部	延享三寅年二月より 宝暦四戌年十二月迄 *寶曆集成六
	三十五 〔祠部／21／35〕	

資料

166	一 寺社之部	寛保四子酉年二月より 寛延元辰年閏十月迄 *寶曆集成十八
165	一 御法事并鳴物停止等之部 宝曆四戌年二月より 同 十辰年三月迄 〔三三ウ〕 四十 〔祠部/21/40〕	*寶曆集成十二
164	一同 三十九 〔祠部/21/39〕	宝曆二申年正月より 同 三酉年十二月迄 *寶曆集成十一
163	一 御法事并鳴物停止等之部 寛延二巳年二月より 宝曆元未年十二月迄 *寶曆集成十	
162	一同 三十八 〔祠部/21/38〕 〔三三オ〕	延享四卯年二月より 寛延元辰年十月迄 *寶曆集成九
173	一 臨時御祝儀等之部 四十式 〔祠部/21/42〕	宝曆十三未年二月より 明和三戌年十一月迄 *天明集成四
172	一 定式御祝儀等之部 宝曆十辰年十二月より 天明七未年二月迄 〔三四ウ〕	*天明集成一
171	一 禁裡御吉凶等之部 宝曆十二午年七月より 天明三卯年十月迄 *天明集成一	
170	一 殿中席書席順并御長屋門 中之口掛札等之部 宝曆十一巳年七月より 天明六午年五月迄 *天明集成一	
169	一 御條目之部 天明七未年十二月 〔三四エ〕 *天明集成一	
168	一 武家諸法度之部 天明七未年九月 〔祠部/21/41〕 四十一	*天明集成一
167	一同 寛延二巳年三月より 宝曆九卯年十二月迄 *寶曆集成十九	

『祠部職掌類聚・祠部職掌雜纂』目録(続)

178	一 同	四十五 〔祠部／21／45〕 〔二五ウ〕	177	一 御法事并鳴物停止等之部 同十一巳年十二月迄	宝曆十辰年九月より *天明集成八	176	一 同	四十四 〔祠部／21／44〕	175	一 臨時御祝儀等之部 安永六酉年正月より 天明元丑年十二月迄 〔二五オ〕 天明二寅年二月より 同 七未年十二月迄 *天明集成七	174	一 同	四十三 〔祠部／21／43〕	明和四亥年十一月より 安永五申年十二月迄 *天明集成五
184	一 同	安永九子年正月より 天明元丑年十二月迄 *天明集成十五	183	一 御法事并鳴物停止等之部 同 八亥年十二月迄	安永七戌年五月より *天明集成十四	182	一 同	四十七 〔祠部／21／47〕 〔二六オ〕	181	一 御法事并鳴物停止等之部 安永二巳年九月迄 明和九辰年正月より *天明集成十二	180	一 同	四十六 〔祠部／21／46〕	明和五子年正月より 同 八卯年九月迄 *天明集成十一
													179	一 御法事并鳴物停止等之部 同 四亥年六月迄 明和二酉年正月より *天明集成十

料

資

189	御社参之部	〔祠部／21／51〕	五十一
188	御社参之部	〔祠部／21／50〕	五十
187	御朱印御判物等之部	〔祠部／21／49〕	四十九
186	同	〔祠部／21／48〕	四十八
185	御法事并鳴物停止等之部	〔祠部／21／47〕	四十七
190	御成之部	〔祠部／21／46〕	四十六
191	御女中様出御等之部	〔祠部／21／45〕	四十五
192	御鷹方之部	〔祠部／21／44〕	四十四
193	御門番勤方等之部	〔祠部／21／43〕	四十三
194	御城内外供廻等之部	〔祠部／21／42〕	四十二
195	参勤交代之部	〔祠部／21／41〕	四十一
196	乗物之部	〔祠部／21／40〕	四十

四十八

〔祠部／21／48〕

御法事并鳴物停止等之部

天明二寅年六月より
同 五巳年七月迄

*天明集成十六

同

天明六年正月より
同 七未年八月迄

*天明集成十七

四十九

〔祠部／21／49〕

御朱印御判物等之部

宝暦十辰年八月より
安永四未年九月迄

*天明集成十八

御社参之部

安永五申年正月より
天明七未年十月迄

〔天明集成十八空〕
*天明集成十九

五十

〔祠部／21／50〕

御社参之部

享保十二未年七月より
元文六酉年正月迄

*寛保集成十四

五十一

〔祠部／21／51〕

190

御成之部

宝暦十辰年十月より
天明四辰年閏正月迄

*天明集成二十

191

御女中様出御等之部

明和四亥年二月より
安永六酉年二月迄

*天明集成二十

192

御鷹方之部

宝暦十一巳年十二月より
天明六午年十二月迄

*天明集成二十

193

御門番勤方等之部

明和六丑年十月より
天明四辰年二月迄

*天明集成二十一

194

御城内外供廻等之部

宝暦十辰年五月より
天明三卯年十二月迄

*天明集成二十一

195

参勤交代之部

明和五子年四月より
安永五申年五月迄

*天明集成二十一

196

乗物之部

安永五申年二月より
天明五巳年四月迄

*天明集成二十一

『祠部職掌類聚・祠部職掌雜纂』目録(続)

203	202	201	200	199	198	197
一 諸役人并組支配勤方等之部 五十式 〔祠部／21／52〕	一 儉約之部 宝曆十三年十月より 天明七年九月迄 〔二八ウ〕	一 養子跡目縁組等之部 宝曆十三年三月より 天明四年九月迄 〔二八ウ〕	一 忌服穢等之部 安永七末年七月 〔四〕 〔二八ウ〕	一 庖瘡麻疹水痘等之部 宝曆十二年十月より 安永七戌年正月迄 〔二八ウ〕	一 衣類之部 安永四末年十二月より 同 九子年三月迄 〔二八ウ〕	一 礼服之部 天明七末年十二月 〔二八オ〕
宝曆十三年三月より 明和九辰年十一月迄 *天明集成二十三	宝曆十三年十月より 天明七年九月迄 *天明集成二十二	宝曆十三年三月より 天明四年九月迄 *天明集成二十二	安永七末年七月 〔四〕 *天明集成二十二	宝曆十二年十月より 安永七戌年正月迄 *天明集成二十二	安永四末年十二月より 同 九子年三月迄 *天明集成二十二	天明七末年十二月 〔二八オ〕 *天明集成二十二
209	208	207	206	205	204	
一 同 五十四 〔祠部／21／54〕	一 寺社之部 宝曆十三年四月より 同十三年十二月迄 〔二八ウ〕	一 風俗之部 宝曆十三年四月より 安永三年十二月迄 〔二九オ〕	一 藝術之部 宝曆十四申年五月より 天明七末年九月迄 〔二九オ〕	一 御褒美之部 明和三年五月より 天明五巳年九月迄 〔二九オ〕	一 同 安永二巳年八月より 天明七末年十二月迄 〔二九オ〕	
宝曆十四申年正月より 明和四亥年十二月迄 *天明集成二十七	宝曆十三年四月より 同十三年十二月迄 *天明集成二十六	宝曆十三年四月より 安永三年十二月迄 *天明集成二十五	宝曆十四申年五月より 天明七末年九月迄 *天明集成二十五	明和三年五月より 天明五巳年九月迄 *天明集成二十五	安永二巳年八月より 天明七末年十二月迄 *天明集成二十四	

214	一 寺社之部	五十六 〔祠部／21／56〕	天明三卯年二月より 同 七末年十二月迄	*天明集成三十二
213	一 同	安永八亥年正月より 天明二寅年十二月迄 〔三〇才〕	*天明集成三十一	
212	一 寺社之部	五十五 〔祠部／21／55〕	安永五申年二月より 同 七戌年十二月迄	*天明集成三十
211	一 同	明和九辰年三月より 安永四未年閏十二月迄	*天明集成二十九	
210	一 寺社之部	〔二九ウ〕 明和五子年正月より 同 八卯年十二月迄	*天明集成二十八	
220	一 堤川除新田等之部	五十七 〔祠部／21／57〕	宝曆十二年六月より 天明七末年十二月迄	*天明集成三十五
219	一 御代官江被仰渡等之部 (宝曆十辰年四月・五月逆繰)	宝曆十辰年五月より 天明七末年三月迄 〔三〇乙〕	*天明集成三十四	
218	一 諸国巡見之部	宝曆十辰年八月より 天明七末年八月迄	*天明集成三十三	
217	一 道中筋之部	明和元申年八月より 天明七末年五月迄 〔三〇乙〕	*天明集成三十三	
216	一 祭礼之部	明和元申年六月より 同 八卯年十二月迄	*天明集成三十三	
215	一 宗旨之部	明和三成年十月より 天明六午年三月迄	*天明集成三十三	

『祠部職掌類聚・祠部職掌雄纂』目録(続)

226	225	224	223	222	221
一 御切米御足高被下金拝借 井上納等之部 (21/59冒頭この標題を欠く)	一 同 五十九 〔祠部/21/59〕	一 御切米御足高被下金拝借 井上納等之部 〔三二乙〕	一 普請作事井上水道等之部 〔祠部/21/58〕	一 火事并火之元等之部 〔三二才〕	一 領知并作毛等之部 〔三二才〕
同 五申年十二月迄 *天明集成四十	同 九辰年九月迄 *天明集成三十九	同 五子年十二月迄 *天明集成三十八	同 七未年八月迄 *天明集成三十七	同 七未年十二月迄 *天明集成三十六	同 六午年閏十月迄 *天明集成三十五
233	232	231	230	229	228
一 諸職人之部	一 榊杵之部	一 米穀之部	一 金銀銅錢之部 六十 〔祠部/21/60〕	一 同	一 同
同 明和三年十一月より *天明集成四十五	同 七戌年八月迄 *天明集成四十五	同 七未年六月迄 *天明集成四十五	同 七未年九月迄 *天明集成四十四	同 四辰年十二月迄 *天明集成四十二	同 九子年十二月迄 *天明集成四十一
227					
一 同					
同 安永六四年二月より *天明集成四十一					

料 資

240	一 奉公人之部	明和七寅年十月より 安永六酉年五月迄	*天明集成四十七
239	一 町屋敷之部	明和二酉年九月より 天明四辰年三月迄	*天明集成四十七
238	一 武士屋敷之部	宝曆十二年八月より 天明元丑年四月迄	*天明集成四十七
237	一 酒造之部	天明六年九月より 同 七未年十二月迄	*天明集成四十六
236	一 諸商賣酒造之部 <small>マヅ</small>	宝曆十二年正月より 天明七未年七月迄 <small>〔三三才〕</small>	*天明集成四十六
235	一 藥種之部	宝曆十辰年十二月より 天明七未年十一月迄	*天明集成四十六
234	一 唐物并唐船等之部	宝曆十一巳年正月より 天明五巳年二月迄 <small>〔祠部／21／61〕</small>	*天明集成四十五
247	一 花火之部	宝曆十辰年七月より 安永九子年七月迄	*天明集成四十九
246	一 牛馬車等之部	宝曆十三未年四月	*天明集成四十九
245	一 公事訴訟并借金銀買掛等 之部	宝曆十二年五月より 天明六午年八月迄 <small>〔三四才〕</small>	*天明集成四十九
244	一 御仕置者之儀二付被仰渡之部	宝曆十辰年四月より 天明五巳年九月迄	*天明集成四十八
243	一 辻番之部 六十式	明和元申年閏十二月より 安永七戌年十二月迄 <small>〔祠部／21／62〕</small>	*天明集成四十七
242	一 高札之部	明和四亥年十二月より 安永六酉年九月迄	*天明集成四十七
241	一 廻船并川船等之部	明和二酉年十二月より 天明五巳年十月迄 <small>〔三三才〕</small>	*天明集成四十七

『祠部職掌類聚・祠部職掌雜纂』目録(続)

	252	251	250	249	248
	一	一	一	一	一
	雑之部 (21/64内目録あり)	琉球人参府之部	朝鮮人来聘之部	博奕之部	御尋者并かたり事等之部
以上	宝曆十辰年五月より 天明七未年十二月迄	宝曆十四申年五月より 明和元申年十一月迄	宝曆十二年正月より 明和二酉年十二月迄	明和元申年十月より 天明三卯年十一月迄	宝曆十辰年五月より 天明七未年七月迄
	六十四		六十三		
	〔祠部/21/64〕		〔祠部/21/63〕		
	三五〇			三四〇	
	*天明集成五十一	*天明集成五十	*天明集成五十	*天明集成四十九	

三五〇

料 付3 御触書総目録

〔祠部／目録／3〕

摠目録

資

御觸書 一

1 一 武家諸法度之部

2 一 御條目之部

3 一 殿中席書并御長屋門中之口
掛札等之部

御觸書 二

4 一 高札之部

5 一 関所之部

御觸書 三

6 一 禁裏御吉凶之部

付3・1 御触書寛保集成総目録

御觸書寛保集成 一

1 一 武家諸法度之部

2 一 御條目之部

3 一 殿中席書并御長屋門中之口
掛札等之部

御觸書寛保集成 二

4 一 高札之部

5 一 関所之部

御觸書寛保集成 三

6 一 禁裏御吉凶等之部

慶長二十卯年七月より

享保二酉年三月迄

寛永九申年九月より

寛保元酉年八月迄

万治二亥年九月より

延享元子年六月迄

寛永十酉年七月より

享保十一午年正月迄

元和二辰年八月より

享保十二未年二月迄

寛文九酉年閏十月より

元文五申年三月迄

『祠部職掌類聚・祠部職掌雜纂』目録(続)

7	一	定式御祝儀等之部	御觸書 四	二之
8	一	定式御祝儀等之部	御觸書 五	
9	一	臨時御祝儀等之部	御觸書 六	三才
10	一	臨時御祝儀等之部	御觸書 七	
11	一	臨時御祝儀等之部	御觸書 八	
		臨時御祝儀等之部	御觸書 九	
7	一	定式御祝儀等之部	御觸書寛保集成 四	寛永二十未年八月より 正徳六申年六月迄
8	一	定式御祝儀等之部	御觸書寛保集成 五	享保元申年七月より 寛保三亥年十月迄
9	一	臨時御祝儀等之部	御觸書寛保集成 六	寛永二十未年正月より 正徳二辰年十二月迄
10	一	臨時御祝儀等之部	御觸書寛保集成 七	正徳三巳年正月より 享保十九寅年六月迄
11	一	臨時御祝儀等之部	御觸書寛保集成 八	享保二十卯年四月より 寛保三亥年八月迄
		臨時御祝儀等之部	御觸書寛保集成 九	

料		資	
12	一 御法事并鳴物停止等之部 三之	13	一 御法事并鳴物停止等之部 御觸書 十
14	一 御法事并鳴物停止等之部 御觸書 十一	15	一 御法事并鳴物停止等之部 御觸書 十二 三才
16	一 御朱印御判物御感状等之部 御觸書 十三	17	一 御上洛御社参等之部 御觸書 十四
12	一 御法事并鳴物停止等之部 寛永二十一申年正月より 正徳元卯年六月迄	13	一 御法事并鳴物停止等之部 御觸書寛保集成 十 正徳二辰年四月より 享保二酉年四月迄
14	一 御法事并鳴物停止等之部 御觸書寛保集成 十一 享保三戌年三月より 同 十七子年十月迄	15	一 御法事并鳴物停止等之部 御觸書寛保集成 十二 享保十八丑年正月より 寛保三亥年二月迄
16	一 御朱印御判物御感状等之部 御觸書寛保集成 十三 寛文五巳年三月より 寛保三亥年十月迄	17	一 御上洛御社参等之部 御觸書寛保集成 十四 寛永十四年三月より 享保六丑年四月迄

料

資

27	一	疱瘡麻疹水痘等之部	御觸書 十七
28	一	忌服穢等之部	
29	一	養子跡目縁組等之部	御觸書 十八
30	一	諸役人并組支配勤方等之部	
31	一	儉約之部	御觸書 十九
32	一	御褒美之部	
33	一	藝術之部	
34	一	風俗之部	

〔四ウ〕

〔五オ〕

27	一	疱瘡麻疹水痘等之部	御觸書寛保集成 十七
28	一	忌服穢等之部	
29	一	養子跡目縁組等之部	御觸書寛保集成 十八
30	一	諸役人并組支配勤方等之部	
31	一	儉約之部	御觸書寛保集成 十九
32	一	御褒美之部	
33	一	藝術之部	
34	一	風俗之部	

延寶八申年十一月より
 寛保元酉年八月迄
 貞享二丑年九月より
 元文四未年九月迄
 寛永十九年十二月より
 寛保二戌年六月迄
 寛永十二亥年十一月より
 寛保三亥年十一月迄
 寛永十七辰年正月より
 寛保三亥年二月迄
 享保二酉年十一月より
 寛保二戌年五月迄
 正保三戌年六月より
 寛保三亥年四月迄
 明暦二申年二月より
 寛保三亥年八月迄

『祠部職掌類聚・祠部職掌雜纂』目録(続)

41	一	諸国巡見之部	御觸書 二十三	〔六才〕
40	一	道中筋之部	御觸書 二十二	
39	一	祭礼之部		
38	一	宗旨之部		
37	一	寺社之部	御觸書 二十一	〔五ウ〕
36	一	殺生之部		
35	一	御鷹方之部	御觸書 二十	
35	一	御鷹方之部	御觸書寛保集成 二十	貞享四卯年二月より 寛保二戌年十月迄
36	一	殺生之部		元禄五申年九月より 元文二巳年十二月迄
37	一	寺社之部	御觸書寛保集成 二十一	万治二亥年十一月より 寛保三亥年九月迄
38	一	宗旨之部		寛永十二亥年九月より 享保三戌年十一月迄
39	一	祭礼之部		慶安二丑年六月より 享保七寅年九月迄
40	一	道中筋之部	御觸書寛保集成 二十二	寛永二十未年二月より 寛保三亥年八月迄
41	一	諸国巡見之部	御觸書寛保集成 二十三	寛文四辰年八月より 享保元申年八月迄

料	資	42 一 御代官江被仰渡部	43 一 村方掟浦方山方牧場等之部	44 一 用水恵水堤川除波除新田等之部	45 一 領知并作毛等之部	46 一 田畑砂降出水作毛虫付等之部	47 一 火事并火之元等之部	48 一 火事并火之元等之部
			御觸書 二十四		御觸書 二十五		御觸書 二十六	御觸書寛保集成 二十七
					〔六乙〕			〔七才〕
		42 一 御代官江被仰渡部	43 一 村方掟浦方山方牧場等之部	44 一 用水恵水堤川除波除新田等之部	45 一 領知并作毛等之部	46 一 田畑砂降出水作毛虫付等之部	47 一 火事并火之元等之部	48 一 火事并火之元等之部
			御觸書寛保集成 二十四		御觸書寛保集成 二十五		御觸書寛保集成 二十六	御觸書寛保集成 二十七
		寛永十九年五月より 寛保三亥年四月迄	寛文八申年三月より 元文五申年九月迄	寶永元申年八月より 寛保三亥年七月迄	寛永九申年六月より 享保二戌年十一月迄	寶永五子年正月より 寛保二戌年十月迄	寛永十六卯年三月より 元禄十四巳年十一月迄	元禄十五年二月より 享保四亥年四月迄

54	一	金銀之部 御觸書 三十二 〔八才〕	
53	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部 御觸書 三十一	
52	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部 御觸書 三十	
51	一	普請作事并上水道等之部 〔七ウ〕	
50	一	地震之部 御觸書 二十九	
49	一	火事并火之元等之部 御觸書 寬保集成 二十八	享保五子年正月より 寛保三亥年四月迄
54	一	金銀之部 御觸書寬保集成 三十二	寛文五巳年三月より 享保二酉年十二月迄
53	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部 御觸書寬保集成 三十一	享保十二未年三月より 寛保二戌年十二月迄
52	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部 御觸書寬保集成 三十	寛永二十未年二月より 享保十巳年五月迄
51	一	普請作事并上水道等之部	寛永二十未年三月より 寛保二戌年十一月迄
50	一	地震之部 御觸書寬保集成 二十九	元禄十六未年十一月より 寶永四亥年十月迄

69	68	67	66	65	64	63
一	一	一	一	一	一	一
飢人御救并施藥養生所等之部	店借地借等之部	町屋敷之部 御觸書 三十九	武士屋敷之部	辻番之部 御觸書 三十八	酒造たはこ作等之部 御觸書 三十七	諸商賣之部 御觸書 三十六

〔九ウ〕

69	68	67	66	65	64	63
一	一	一	一	一	一	一
飢人御救并施藥養生所等之部	店借地借等之部	町屋敷之部 御觸書寛保集成 三十九	武士屋鋪之部	辻番之部 御觸書寛保集成 三十八	酒造たはこ作等之部 御觸書寛保集成 三十七	諸商賣之部 御觸書寛保集成 三十六
寛保元酉年十月迄	貞享四卯年正月より 元文元辰年六月迄 慶安四卯年三月より 享保十七子年六月迄	慶安四卯年二月より 享保十七子年六月迄 慶安四卯年三月より 元文元辰年六月迄 貞享四卯年正月より	寛文七未年十月より 寛保二戌年三月迄	寛文元丑年九月より 享保十二未年十一月迄 寛文七未年十月より	正徳五未年十月迄 万治元戌年十二月より	寛保三亥年閏四月迄 慶安元子年四月より

料		資	
70	御觸書 四十 〔一〇五〕 奉公人并同宿出居衆等之部	71	御觸書 四十一 日雇稼者之部
72	一 物もらひ非人等之部	71	一 日雇稼者之部
73	御觸書 四十二 廻船并川船等之部 〔一〇六〕	72	一 物もらひ非人等之部
74	一 御堀并所々橋塵芥捨場等之部	73	御觸書寛保集成 四十二 廻船并川船等之部
75	御觸書 四十三 御仕置者之儀二付被仰渡部	74	一 御堀并所々橋塵芥捨場等之部
76	一 鉄炮之部	75	御觸書寛保集成 四十三 御仕置者之儀二付被 仰渡部
70	御觸書寛保集成 四十 奉公人并同宿出居衆等之部	71	一 日雇稼者之部
71	御觸書寛保集成 四十一	72	一 物もらひ非人等之部
72	承應二巳年九月より 寛保三亥年七月迄 寛文二十子年二月より 享保九辰年九月迄	73	寛永十五寅年五月より 寛保二戌年十一月迄
73	慶安四卯年十一月より 享保二戌年十月迄	74	寛永十七辰年正月より 寛保元酉年七月迄 正保二酉年六月より 享保十四酉年二月迄

83	一	盜賊之部	御觸書 四十七	83	一	盜賊之部	御觸書寬保集成 四十七	寛永十六卯年十月より 寛保三亥年六月迄
82	一	花火之部	御觸書 四十六	82	一	花火之部	御觸書寬保集成 四十六	正保二酉年七月より 元文五申年閏七月迄 寛文十戌年七月より 寛保元酉年七月迄
81	一	歌舞伎芝居遊女野郎比丘尼等之部	御觸書 四十五	81	一	歌舞伎芝居遊女野郎比丘尼等之部	御觸書寬保集成 四十五	承應四未年三月より 寛保三亥年十月迄 慶安二丑年七月より 寛保三亥年六月迄
80	一	相撲躍鞠小哥等時行事之部	御觸書 四十四	80	一	相撲躍鞠小哥等時行事之部	御觸書寬保集成 四十四	正保三戌年三月より 寛保三亥年十一月迄 寛永二十未年三月より 元文二巳年二月迄
79	一	町駕籠并牛馬車等之部	御觸書 四十三	79	一	町駕籠并牛馬車等之部	御觸書寬保集成 四十三	
78	一	質田畑并小作等之部	御觸書 四十二	78	一	質田畑并小作等之部	御觸書寬保集成 四十二	
77	一	公事訴訟并借金買掛等之部	御觸書 四十一	77	一	公事訴訟并借金買掛等之部	御觸書寬保集成 四十一	

資 料

84	一	博奕之部	料
85	一	捨子之部	資
86	一	狼藉者之部	
87	一	異説之部	
88	一	御尋者并かたり事等之部	
89	一	雑之部	
90	一	朝鮮人来聘之部	
91	一	琉球人参府之部	
84	一	博奕之部	
85	一	捨子之部	
86	一	狼藉者之部	
87	一	異説之部	
88	一	御尋者并かたり事等之部	
89	一	雑之部	
90	一	朝鮮人来聘之部	
91	一	琉球人参府之部	

御觸書 五十

〔二二ウ〕

御觸書 四十八

〔二二オ〕

御觸書寛保集成 五十

御觸書寛保集成 四十八

承應四未年三月より
寛保三亥年十二月迄
元禄三年十月より
享保十九寅年九月迄

慶安二丑年七月より
寛保二戌年七月迄
元禄二巳年十月より
寛保二戌年九月迄
慶安元子年三月より
寛保三亥年十一月迄

正保五子年二月より
寛保三亥年十月迄

承應四未年三月より
享保四亥年十月迄
寛文十一亥年七月より
享保三戌年十一月迄

『祠部職掌類聚・祠部職掌雜纂』目録(続)

御觸書総目録

〔二四才〕

惣目録

御觸書 一

1 武家諸法度之部

2 御條目之部

3 殿中席書并御長屋門中之口掛札等之部

〔二五才〕

御觸書 二

4 禁裏御吉凶之部

御觸書 三

5 定式御祝儀等之部

御觸書 四

付3・2 御觸書寶曆集成総目録

御觸書寶曆集成 一

1 武家諸法度之部

2 御條目之部

3 殿中席書并御長屋門中之口掛札等之部

中之口掛札等之部

御觸書寶曆集成 二

4 禁裏御吉凶等之部

御觸書寶曆集成 三

5 定式御祝儀等之部

御觸書寶曆集成 四

延享三寅年三月より
同 三寅年五月迄
寶暦元未年十一月

延享三寅年六月より
寶暦十辰年三月迄

延享四卯年三月より
寶暦五亥年十二月迄

寛保四子年正月より
寛延元辰年八月迄

<p>料</p> <p>6 一 定式御祝儀等之部</p> <p><small>〔貼紙、以下同〕</small></p> <p><small>〔二五ウ〕</small></p>	<p>資</p> <p>7 一 臨時御祝儀等之部</p> <p>御觸書 五</p>	<p>8 一 臨時御祝儀等之部</p> <p>御觸書 六</p>	<p>9 一 臨時御祝儀等之部</p> <p>御觸書 七</p> <p><small>〔二六オ〕</small></p>	<p>10 一 御法事并鳴物停止等之部</p> <p>御觸書 八</p>	<p>11 一 御法事并鳴物停止等之部</p> <p>御觸書 九</p>
<p>6 一 定式御祝儀等之部</p> <p>寛延二巳年四月より 寶曆十辰年三月迄</p>	<p>7 一 臨時御祝儀等之部</p> <p>御觸書寶曆集成 五</p> <p>寛保四子年二月より 延享二丑年十二月迄</p>	<p>8 一 臨時御祝儀等之部</p> <p>御觸書寶曆集成 六</p> <p>延享三寅年二月より 寶曆四戌年十二月迄</p>	<p>9 一 臨時御祝儀等之部</p> <p>御觸書寶曆集成 七</p> <p>寶曆六子年二月より 同 十辰年三月迄</p>	<p>10 一 御法事并鳴物停止等之部</p> <p>御觸書寶曆集成 八</p> <p>延享元子年四月より 同 三寅年七月迄</p>	<p>11 一 御法事并鳴物停止等之部</p> <p>御觸書寶曆集成 九</p> <p>延享四卯年二月より 寛延元辰年十月迄</p>

16	一 御成之部 御觸書 十四				
15	一 御朱印御判物御感状等之部 御觸書 十三 「不見」 〔七才〕				
14	一 御法事并鳴物停止等之部 御觸書 十二				
13	一 御法事并鳴物停止等之部 御觸書 十一				
12	一 御法事并鳴物停止等之部 御觸書 十 〔六乙〕				
17	一 御成之部 御觸書實曆集成 十四	16	一 御社参之部	15	一 御朱印御判物御感状等之部 御觸書實曆集成 十三
				14	一 御法事并鳴物停止等之部 御觸書實曆集成 十二
				13	一 御法事并鳴物停止等之部 御觸書實曆集成 十一
				12	一 御法事并鳴物停止等之部 御觸書實曆集成 十
					寛延二巳年二月より 實曆元未年十二月迄
					實曆二申年正月より 同 三申年十二月迄
					實曆四戌年二月より 同 十辰年三月迄
					延享二丑年九月より 實曆九卯年九月迄 延享二丑年正月より 實曆九卯年四月迄
					延享元子年九月より 實曆八寅年七月迄

		資		料	
17	一	御鷹方之部		18	一
					御女中様入御出御等之部
					「不見」
19	一	御門番勤方之覺		20	一
					御城内外供廻等之部
					御勤交替之部
					「不見」
21	一	參勤交替之部		22	一
					乗物之部
					「不見」
23	一	礼服之部		24	一
					衣類之部
					「二八才」
25	一	庖瘡麻疹水痘等之部		26	一
					御觸書實曆集成
					十六
17	一	御鷹方之部		18	一
					御女中様入御出御等之部
					「不見」
19	一	御門番勤方之覺		20	一
					御城内外供廻等之部
					御勤交替之部
					「不見」
21	一	參勤交替之部		22	一
					乗物之部
					「不見」
23	一	礼服之部		24	一
					衣類之部
					「二八才」
25	一	庖瘡麻疹水痘等之部		26	一
					御觸書實曆集成
					十六
寶曆三酉年八月より				延享二丑年二月より	
寶曆四戌年十二月迄				寶曆八寅年四月迄	
延享元子年九月より				延享元子年六月より	
寶曆五亥年十一月迄				同 五辰年六月迄	
延享二丑年正月より				延享五辰年四月より	
寶曆六子年七月迄				延享八寅年四月迄	
				延享四卯年四月	
				延享元子年九月より	
				寶曆九卯年閏七月迄	
				寛保四子年正月より	
				寶曆四戌年正月迄	

『祠部職掌類聚・祠部職掌雜纂』目録(続)

26	一 忌服穢等之部 「不見」								
27	一 養子跡目縁組等之部								
28	一 諸役人并組支配勤方等之部								
29	一 儉約之部 御觸書 十七 「二八ウ」								
30	一 御褒美之部								
31	一 藝術之部 「不見」								
32	一 風俗之部								
33	一 寺社之部 御觸書 十八 「二九オ」								
27	一 忌服穢等之部								延享三寅年九月より 寛延三年九月迄
28	一 養子跡目縁組等之部								延享二丑年十二月より 寶曆九卯年十一月迄
29	一 諸役人并組支配勤方等之部								延享二丑年正月より 寶曆十辰年二月迄
30	一 儉約之部 御觸書寶曆集成 十七								延享三寅年十二月より 寶曆九卯年十月迄
31	一 御褒美之部								延享四卯年四月より 寶曆九卯年十月迄
32	一 藝術之部								延享四卯年四月 寛延二巳年五月より
33	一 風俗之部								寛延二巳年五月より 同 三年八月迄
34	一 寺社之部 御觸書寶曆集成 十八								寛保四子年二月より 寛延元辰年閏十月迄
	御觸書 十九								

料	34	一 寺社之部		35	一 寺社之部	寛延二巳年三月より 寶曆九卯年十二月迄
資	35	一 御觸書 二十 宗旨之部		36	一 御觸書寶曆集成 二十 宗旨之部	延享二丑年二月より 寶曆八寅年五月迄
	36	一 祭礼之部 「不見」		37	一 祭礼之部	延享元子年六月より 寶曆九卯年五月迄
	37	一 道中筋之部 「九ウ」		38	一 道中筋之部	延享二丑年六月より 寶曆八寅年三月迄
	38	一 御觸書 二十一 諸国巡見之部		39	一 御觸書寶曆集成 二十一 諸国巡見之部	延享二丑年十月より 同年閏十二月迄
	39	一 御代官江被 仰渡等之部		40	一 御代官江被 仰渡等之部	延享元子年五月より 寶曆九卯年七月迄
	42	一 御觸書 二十二 堤川除波除新田等之部		41	一 御觸書寶曆集成 二十二 堤川除波除新田等之部	延享四卯年十一月より 寶曆八寅年六月迄
	43	一 領知并作毛等之部 「二〇オ」		42	一 領知并作毛等之部	延享元子年八月より 寶曆十辰年三月迄

『祠部職掌類聚・祠部職掌雜纂』目録(続)

48	一	秤之部	「不見」
47	一	米穀之部	
46	一	金銀之部	
		御觸書	二十六
45	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部	二〇二
		御觸書	二十五
44	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部	
43	一	普請作事并上水道等之部	
		御觸書	二十四
42	一	火事并火之元等之部	
		御觸書	二十三
49	一	秤之部	
48	一	米穀之部	
47	一	金銀之部	
		御觸書實曆集成	二十六
46	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部	
		御觸書實曆集成	二十五
45	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部	
44	一	普請作事并上水道等之部	
		御觸書實曆集成	二十四
43	一	火事并火之元等之部	
		御觸書實曆集成	二十三
<hr/>			
48	一	米穀之部	延享元年十一月より 實曆九卯年八月迄
47	一	金銀之部	延享元年十一月より 實曆六子年十一月迄
46	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部	寛保四年二月より 實曆九卯年九月迄
45	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部	寛延四年九月迄
44	一	普請作事并上水道等之部	延享元年四月より 實曆五亥年七月迄
43	一	火事并火之元等之部	延享元年三月より 寛延四年九月迄
42	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部	寛延四年九月迄
41	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部	寛延四年九月迄
40	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部	寛延四年九月迄
39	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部	寛延四年九月迄
38	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部	寛延四年九月迄
37	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部	寛延四年九月迄
36	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部	寛延四年九月迄
35	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部	寛延四年九月迄
34	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部	寛延四年九月迄
33	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部	寛延四年九月迄
32	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部	寛延四年九月迄
31	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部	寛延四年九月迄
30	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部	寛延四年九月迄
29	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部	寛延四年九月迄
28	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部	寛延四年九月迄
27	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部	寛延四年九月迄
26	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部	寛延四年九月迄
25	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部	寛延四年九月迄
24	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部	寛延四年九月迄
23	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部	寛延四年九月迄
22	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部	寛延四年九月迄
21	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部	寛延四年九月迄
20	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部	寛延四年九月迄
19	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部	寛延四年九月迄
18	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部	寛延四年九月迄
17	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部	寛延四年九月迄
16	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部	寛延四年九月迄
15	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部	寛延四年九月迄
14	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部	寛延四年九月迄
13	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部	寛延四年九月迄
12	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部	寛延四年九月迄
11	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部	寛延四年九月迄
10	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部	寛延四年九月迄
9	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部	寛延四年九月迄
8	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部	寛延四年九月迄
7	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部	寛延四年九月迄
6	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部	寛延四年九月迄
5	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部	寛延四年九月迄
4	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部	寛延四年九月迄
3	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部	寛延四年九月迄
2	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部	寛延四年九月迄
1	一	御切米御足高被下金拝借并上納等之部	寛延四年九月迄

料	49	一 諸職人之部	三二才
資	50	一 御觸書 二十七 唐物并唐船之部	
	51	一 藥種之部 「不見」	
	52	一 書籍并板行等之部	三二乙
	53	一 御觸書 二十八 諸商賣之部	
	54	一 酒造之部 「不見」	
	55	一 武士屋鋪之部	三三才
	56	一 御觸書 二十九 町屋敷之部	
<hr/>			
	50	一 諸職人之部	
	51	一 御觸書實曆集成 二十七 唐物并唐船之部	
	52	一 藥種之部	
	53	一 書籍并板行等之部	
	54	一 御觸書實曆集成 二十八 諸商賣之部	
	55	一 酒造之部	
	56	一 武士屋鋪之部	
	57	一 御觸書實曆集成 二十九 町屋敷之部	
<hr/>			
		延享三寅年三月より 寶曆十辰年二月迄	
		延享三寅年三月より 寶曆六子年十月迄 延享元子年二月より 寶曆九卯年十二月迄 延享元子年八月より 寶曆四戌年十一月迄	
		延享元子年三月より 寶曆十辰年二月迄 寶曆四戌年十一月 延享二丑年七月より 寶曆九卯年四月迄	
		延享二丑年閏十二月より 寶曆九卯年十一月迄	

『祠部職掌類聚・祠部職掌雜纂』目録(続)

65	64	63	62	61	60	59	58	57
一	一	一	一	一	一	一	一	一
隱賣女之部	踊時行事之部	牛馬車等之部	公事訴訟并借金買掛等之部	御仕置者之儀ニ付被 仰渡之部	御堀并所々橋塵芥捨場等之部	廻船并川船等之部	日雇稼者之部	奉公人之部
「不見」		御觸書 三十一	「不見」 「二三才」	御觸書 三十		「三二乙」	「不見」	
66	65	64	63	62	61	60	59	58
一	一	一	一	一	一	一	一	一
隱賣女之部	躍時行事之部	牛馬車等之部	公事訴訟并借金買掛等之部	御仕置者之儀ニ付被 仰渡之部	御堀并所々橋塵芥捨場等之部	廻船并川船等之部	日雇稼者之部	奉公人之部
		御觸書寶曆集成 三十一		御觸書寶曆集成 三十				
延享三寅年正月	寶曆六子年七月迄 延享元子年六月より 延享二丑年五月より	寶曆八寅年六月迄 延享元子年六月より 延享二丑年五月より	寶曆九卯年七月迄 延享元子年五月より 延享二丑年二月より	寶曆九卯年八月迄 延享元子年五月より 延享二丑年二月より	寶曆九卯年閏七月迄 寬保四子年正月より 寬保六子年二月迄	寶曆六子年二月迄 延享二丑年六月より 寶曆四戌年四月迄	寶曆七丑年四月迄 延享元子年九月より 寶曆四戌年四月迄	寬保四子年二月より 寶曆七丑年四月迄 延享元子年九月より

		資		料	
66	一	花火之部		67	一
					盜賊之部
					〔三三ウ〕
69	一	御尋者并かたり事等之部		68	一
					異説之部
70	一	殺生之部			
71	一	御觸書 三十二			
		雑之部			
		〔不見〕			
					〔三四ウ〕
72	一	朝鮮人來聘之部		73	一
		御觸書 三十三			朝鮮人來聘之部
					〔不見〕
					〔三四ウ〕
73	一	琉球人參府之部		74	一
					琉球人參府之部
66	一	花火之部		67	一
					盜賊之部
					異説之部
69	一	御尋者并かたり事等之部		70	一
					殺生之部
71	一	御觸書實曆集成 三十二		72	一
					雑之部
					御觸書實曆集成 三十三
					朝鮮人來聘之部
					同 五辰年七月迄
					寛延元辰年閏十月より
					寶曆二申年十二月迄
					延享三寅年九月より
					同 九卯年五月迄
					延享四卯年十月より
					寶曆十辰年二月迄
					延享三寅年五月より
					寶曆二申年六月迄
					延享元子年四月より
					寶曆八寅年十月迄
					寶曆二申年八月迄
					延享元子年四月より
					寶曆十辰年三月迄
					延享元子年四月より

『祠部職掌類聚・祠部職掌雜纂』目録(統)

御觸書總目録						
總目録						〔二五才〕
御觸書 一	1	一	1	1	1	
武家諸法度之部						
御條目之部	2	一	2	2	2	
〔不見〕						
殿中席書席順并御長屋門中之口掛札等之部	3	一	3	3	3	
禁裏御吉凶等之部	4	一	4	4	4	
定式御祝儀等之部	5	一	5	5	5	〔二六才〕
御觸書 二						
臨時御祝儀等之部	6	一	6	6	6	
〔不見〕						
御觸書 三						

付3・3 御觸書天明集成総目録						
御觸書天明集成 一	1	一	1	1	1	
武家諸法度之部						
御條目之部	2	一	2	2	2	
天明七末年十二月						
殿中席書席順并御長屋門中之口掛札等之部	3	一	3	3	3	
禁裏御吉凶等之部	4	一	4	4	4	
定式御祝儀等之部	5	一	5	5	5	
御觸書天明集成 二						
臨時御祝儀等之部	6	一	6	6	6	
御觸書天明集成 三						
天明七末年六月						
寶曆十二年七月より						
天明三卯年十月迄						
寶曆十辰年十二月より						
天明七末年二月迄						
寶曆十辰年正月より						
同 年十二月迄						

料	7	一	臨時御祝儀等之部	「不見」
資	8	一	臨時御祝儀等之部	
			御觸書 四	
			御觸書 五	
	9	一	臨時御祝儀等之部	
			御觸書 六	
	10	一	臨時御祝儀等之部	
			御觸書 七	
	11	一	臨時御祝儀等之部	「二七オ」
			御觸書 八	
	12	一	御法事并鳴物停止等之部	
	7	一	臨時御祝儀等之部	寶曆十一巳年正月より 同 十二年十二月迄
	8	一	臨時御祝儀等之部	寶曆十三未年二月より 明和三戌年十一月迄
			御觸書天明集成 四	
	9	一	臨時御祝儀等之部	明和四亥年十一月より 安永五申年十二月迄
			御觸書天明集成 五	
	10	一	臨時御祝儀等之部	安永六酉年正月より 天明元丑年十二月迄
			御觸書天明集成 六	
	11	一	臨時御祝儀等之部	天明二寅年二月より 同 七未年十二月迄
			御觸書天明集成 七	
	12	一	御法事并鳴物停止等之部	寶曆十辰年九月より 同十一巳年十二月迄
			御觸書天明集成 八	

『祠部職掌類聚・祠部職掌雜纂』目録(続)

17	一	御法事并鳴物停止等之部 御觸書 十四	三 八 才
16	一	御法事并鳴物停止等之部 御觸書 十二	
15	一	御法事并鳴物停止等之部 御觸書 十一	
14	一	御法事并鳴物停止等之部 御觸書 十	三 七 ウ
13	一	御法事并鳴物停止等之部 御觸書 九	
17	一	御法事并鳴物停止等之部 御觸書天明集成 十四	
16	一	御法事并鳴物停止等之部 御觸書天明集成 十三	
15	一	御法事并鳴物停止等之部 御觸書天明集成 十一	
14	一	御法事并鳴物停止等之部 御觸書天明集成 十	
13	一	御法事并鳴物停止等之部 御觸書天明集成 九	
			寶曆十二年閏四月より 明和元年閏十二月迄
			明和二酉年正月より 同 四亥年六月迄
			明和五子年正月より 同 八卯年九月迄
			明和九辰年正月より 安永二巳年九月迄
			安永三午年正月より 同 六酉年九月迄

料	18 一 御法事并鳴物停止等之部	安永七戌年五月より 同 八亥年十二月迄
資	19 一 御法事并鳴物停止等之部 御觸書 十五	安永九子年正月より 天明元丑年十二月迄
	20 一 御法事并鳴物停止等之部 御觸書 十六	天明二寅年六月より 同 五巳年七月迄
	21 一 御法事并鳴物停止等之部 御觸書 十七	天明六午年正月より 同 七未年八月迄
	22 一 御朱印御判物等之部 御觸書 十八	寶曆十辰年八月より 天明七未年七月迄 寶曆十辰年三月より 安永四未年九月迄
	23 一 御社参之部 御觸書 十九	御觸書天明集成 十九

三八乙

三九才

『祠部職掌類聚・祠部職掌雜纂』 目録(続)

24	一	御社参之部	
25	一	御成之部	
		御觸書 二十	
26	一	御女中様出御等之部	
27	一	御鷹方之部	
		御觸書 二十一	
28	一	御門番勤方等之覺	
29	一	御城内外供廻り等之部	
30	一	参勤交代之部	
31	一	乗物之部	
		御觸書 二十二	
〔三九之〕			
24	一	御社参之部	安永五申年正月より 天明七未年十月迄
25	一	御成之部	寶曆十辰年十月より 天明四辰年閏正月迄
		御觸書天明集成 二十	
26	一	御女中様出御等之部	明和四亥年二月より 安永六酉年二月迄
27	一	御鷹方之部	寶曆十一巳年十二月より 天明六午年十二月迄
		御觸書天明集成 二十一	
28	一	御門番勤方等之覺	明和六丑年十月より 天明四辰年二月迄
29	一	御城内外供廻り等之部	寶曆十辰年五月より 天明三卯年十二月迄
30	一	参勤交替之部	明和五子年四月より 安永五申年五月迄
31	一	乗物之部	安永五申年二月より 天明五巳年四月迄
		御觸書天明集成 二十二	

		資		料	
40	一	39	一	32	一
御褒美之部		諸役人并組支配勤方等之部		礼服之部	
		御觸書 二十四			
					[三〇才]
40	一	39	一	33	一
御褒美之部		諸役人并組支配勤方等之部		衣類之部	
		御觸書 二十五			
40	一	38	一	34	一
御褒美之部		諸役人并組支配勤方等之部		庖瘡麻疹水痘等之部	
		御觸書 二十三			
40	一	37	一	35	一
御褒美之部		俚約之部		忌服穢等之部	
40	一	36	一	36	一
御褒美之部		養子跡目縁組等之部		養子跡目縁組等之部	
40	一	35	一	37	一
御褒美之部		忌服穢等之部		俚約之部	
40	一	34	一	38	一
御褒美之部		庖瘡麻疹水痘等之部		諸役人并組支配勤方等之部	
				御觸書 天明集成 二十四	
40	一	33	一	39	一
御褒美之部		衣類之部		諸役人并組支配勤方等之部	
				御觸書 天明集成 二十五	
40	一	32	一	40	一
御褒美之部		礼服之部		御褒美之部	

天明七末年十二月

安永四末年十二月より

同 九子年三月迄

寶曆十二年十月より

安永七戌年正月迄

安永四末年七月

寶曆十辰年三月より

天明四辰年九月迄

寶曆十三末年十月より

天明七末年九月迄

寶曆十辰年三月より

明和九辰年十一月迄

安永二巳年八月より

天明七末年十二月迄

明和三年五月より

天明五巳年九月迄

『祠部職掌類聚・祠部職掌雜纂』目録(続)

41	一	藝術之部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
----	---	------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

資 料

47	一	寺社之部	御觸書 三十
48	一	寺社之部	御觸書 三十一
49	一	寺社之部	御觸書 三十二
50	一	宗旨之部	御觸書 三十三
51	一	祭礼之部	
52	一	道中筋之部	
53	一	諸国巡見之部	

〔三才〕

〔三乙〕

47	一	寺社之部	御觸書天明集成 三十
48	一	寺社之部	御觸書天明集成 三十一
49	一	寺社之部	御觸書天明集成 三十二
50	一	宗旨之部	御觸書天明集成 三十三
51	一	祭礼之部	
52	一	道中筋之部	
53	一	諸国巡見之部	

安永五申年二月より
同 七戌年十二月迄

安永八亥年正月より
天明二寅年十二月迄

天明三卯年二月より
同 七未年十二月迄

明和三戌年十月より
天明六午年三月迄
明和元申年六月より
同 八卯年十二月迄
明和元申年八月より
天明七未年五月迄
寶曆十辰年八月より
天明七未年八月迄

59	一	御切米御足高被下金拝借井上納等之部 御觸書 三十八 「不見」
58	一	普請作事井上水道等之部 御觸書 三十七 「不見」
57	一	火事井火之元等之部 御觸書 三十六 「不見」 「三才」
56	一	領知井作毛之等之部 「不見」
55	一	堤川除新田等之部 御觸書 三十五
54	一	御代官江被仰渡等之部 御觸書 三十四
59	一	御切米御足高被下金拝借井上納等之部 御觸書天明集成 三十八
58	一	普請作事井上水道等之部 御觸書天明集成 三十七
57	一	火事井火之元等之部 御觸書天明集成 三十六
56	一	領知井作毛等之部
55	一	堤川除新田等之部
54	一	御代官江被仰渡等之部
		寶曆十辰年五月より 天明七末年三月迄
		寶曆十二年六月より 天明七末年十二月迄 明和元年閏十二月より 天明六年閏十月迄
		寶曆十一巳年十一月より 天明七末年八月迄
		寶曆十辰年五月より 明和五子年十二月迄

料

資

御觸書 三十九

60 一 御切米御足高被下金拝借并上納等之部

〔三三〇〕

御觸書 四十

61 一 御切米御足高被下金拝借并上納等之部

御觸書 四十一

62 一 御切米御足高被下金拝借并上納等之部

御觸書 四十二

63 一 御切米御足高被下金拝借并上納等之部

〔三四一〕

御觸書 四十三

64 一 御切米御足高被下金拝借并上納等之部

御觸書 四十四

御觸書天明集成 三十九

60 一 御切米御足高被下金拝借并上納等之部

明和六丑年正月より
同 九辰年九月迄

御觸書天明集成 四十

61 一 御切米御足高被下金拝借并上納等之部

安永二巳年二月より
同 五申年十二月迄

御觸書天明集成 四十一

62 一 御切米御足高被下金拝借并上納等之部

安永六酉年二月より
同 九子年十二月迄

御觸書天明集成 四十二

63 一 御切米御足高被下金拝借并上納等之部

天明元丑年五月より
同 四辰年十二月迄

御觸書天明集成 四十三

64 一 御切米御足高被下金拝借并上納等之部

天明五巳年四月より
同 七未年九月迄

御觸書天明集成 四十四

『祠部職掌類聚・祠部職掌雜纂』 目録(続)

65	一	金銀銅錢之部	
66	一	御觸書 米穀之部 四十五	〔三四ウ〕
67	一	枅秤之部	
68	一	諸職人之部	
69	一	唐物并唐船等之部	
70	一	御觸書 藥種之部 四十六	
71	一	諸商賣之部	
72	一	酒造之部 御觸書 四十七	〔三五オ〕
65	一	金銀銅錢之部	
66	一	御觸書天明集成 米穀之部 四十五	
67	一	枅秤之部	
68	一	諸職人之部	
69	一	唐物并唐船等之部	
70	一	御觸書天明集成 藥種之部 四十六	
71	一	諸商賣之部	
72	一	酒造之部 御觸書天明集成 四十七	
			寶曆十辰年八月より 天明七未年九月迄
			寶曆十辰年七月より 天明七未年六月迄
			安永四未年二月より 同 七戌年八月迄
			明和三成年十一月より 天明四辰年三月迄
			寶曆十一巳年正月より 天明五巳年二月迄
			寶曆十辰年十二月より 天明七未年十一月迄
			寶曆十二午年正月より 天明七未年七月迄
			天明六午年九月より 同 七未年十二月迄

		資		料	
73	一	武士屋敷之部		73	一
74	一	町屋敷之部		74	一
75	一	奉公人之部		75	一
76	一	廻船并川船等之部		76	一
77	一	高札之部		77	一
78	一	辻番之部		78	一
〔三五ウ〕					
79	一	御觸書 四十八		79	一
		御仕置者之儀ニ付被仰渡之部			
80	一	御觸書 四十九		80	一
		公事訴訟并借金買掛等之部			
81	一	牛馬車等之部		81	一
<hr/>					
73	一	武士屋舗之部		73	一
74	一	町屋舗之部		74	一
75	一	奉公人之部		75	一
76	一	廻船并川船等之部		76	一
77	一	高札之部		77	一
78	一	辻番之部		78	一
79	一	御觸書天明集成 四十八		79	一
		御仕置者之儀ニ付被 仰渡之部			
80	一	御觸書天明集成 四十九		80	一
		公事訴訟并借金買掛等之部			
81	一	牛馬車等之部		81	一
<p>寶曆十二年八月より 天明元丑年四月迄 明和二酉年九月より 天明四辰年三月迄 明和七寅年十月より 安永六酉年五月迄 明和二酉年十二月より 天明五巳年十月迄 明和四亥年十二月より 安永六酉年九月迄 明和元申年閏十二月より 安永七戌年十二月迄</p> <p>寶曆十辰年四月より 天明五巳年九月迄</p> <p>寶曆十二年五月より 天明六年八月迄 寶曆十三未年四月</p>					

『祠部職掌類聚・祠部職掌雜纂』目録(続)

87	一 雑之部 御觸書 五十一	三六乙
86	一 琉球人參府之部	
85	一 朝鮮人來聘之部 御觸書 五十	
84	一 博奕之部	
83	一 御尋者并かたり事等之部	三六オ
82	一 花火之部	

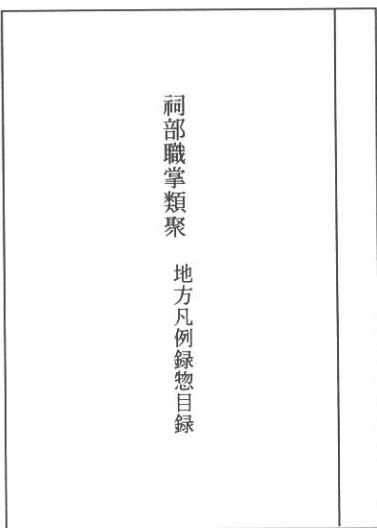
87	一 雑之部 御觸書天明集成 五十一	寶曆十辰年五月より 天明七未年十二月迄
86	一 琉球人參府之部	寶曆十四申年五月より 明和元申年十一月迄
85	一 朝鮮人來聘之部 御觸書天明集成 五十	寶曆十二午年正月より 明和二酉年十二月迄
84	一 博奕之部	明和元申年十月より 天明三卯年十一月迄
83	一 御尋者并かたり事等之部	寶曆十辰年五月より 天明七未年七月迄
82	一 花火之部	寶曆十辰年七月より 安永九子年七月迄

料 付4 祠部職掌類聚 地方凡例録惣目録

〔祠部／目録／四〕

資

〔表紙〕



(縦 27.3 cm 横 19.7 cm)

〔本文〕

地方凡例録惣目録

壹之卷

1 地方総論

2 井田大意之事

3 地方六之數發之事

附タリ
一 田地一段三百歩濫觴之事

4 國郡郷里發之事

附タリ
一 地堺炭埋始之事

御當代地方始之事

上方關東國分并田畑不同之事

附タリ
一 御料無之國々之事

〔オ〕

石高之事

附タリ
一 分米之事

貫高之事

附タリ
一 六貫耆匹之軍役耆騎人數之事

永高之事

反高之事

小以高之事

出目高之事

町反畝歩之事

無地高之事

一 無地高之類負高寺社高江不掛例之事

色高之事

野高之事

海高之事

山高之事

桑高之事

楮高之事

〔ウ〕

21	一	孤高之事	26	一	物成詰之事
22	一	除地高之事	25	一	延高之事
23	一	除キ高之事	24	一	込高之事
27	一	四一高之事	23	一	延高之事
28	一	式拾貫百石之事	26	一	物成詰之事
29	一	永之四割替高之式割替高五石替之事	27	一	知行渡三ツ五分之發并永方貫代之事
30	一	上方関東物成歩合差ヒ之事	28	一	私領渡之節新田渡方并取箇免上ケ之事
31	一	田畑六分違之事	29	一	私領渡ニ付野山開發心得之事
	一	壹五之法發リ之事	30	一	田畑名目之事
	一	厘付八之法之事	31	一	四木三草莠若始リ之事
	一	式之卷	32	一	藺田 麻田 麦田 見附田 砂田 山田 谷田
	一	檢地之事	33	一	棚田 沼田 深田 植田 蒔田 摘田
	一	居檢地之事	34	一	桑畑 楮畑 漆畑 茶畑 麻畑 見附畑
	一	水帳發リ之事	35	一	砂畑 山畑 野畑 切替畑 燒畑 薙畑 葭畑
	一	古來檢地御條目之事	36	一	鹿野畑 苧生畑 林畑 萱畑 萩畑 葭畑
			37	一	新田切添之事
			38	一	分間之事
			39	一	新林立出之事
			40	一	土地善惡之事
			41	一	村柄見捨地之事
			42	一	墓所損馬捨場之事
			43	一	地代金之事
			44	一	鋤下年季之事
			45	一	新田檢地御條目之事
			46	一	地押之事
			47	一	廻リ檢地之事
			48	一	石盛之事
			49	一	斗代之事
			50	一	大半小歩之事
			51	一	竿延之事
			52	一	田畑名目之事
			53	一	四木三草莠若始リ之事
			54	一	藺田 麻田 麦田 見附田 砂田 山田 谷田
			55	一	棚田 沼田 深田 植田 蒔田 摘田
			56	一	桑畑 楮畑 漆畑 茶畑 麻畑 見附畑
			57	一	砂畑 山畑 野畑 切替畑 燒畑 薙畑 葭畑
			58	一	鹿野畑 苧生畑 林畑 萱畑 萩畑 葭畑
			59	一	新田切添之事
			60	一	分間之事
			61	一	新林立出之事
			62	一	土地善惡之事
			63	一	村柄見捨地之事
			64	一	墓所損馬捨場之事
			65	一	地代金之事
			66	一	鋤下年季之事
			67	一	新田檢地御條目之事
			68	一	地押之事
			69	一	廻リ檢地之事
			70	一	石盛之事
			71	一	斗代之事
			72	一	大半小歩之事
			73	一	竿延之事
			74	一	田畑名目之事
			75	一	四木三草莠若始リ之事
			76	一	藺田 麻田 麦田 見附田 砂田 山田 谷田
			77	一	棚田 沼田 深田 植田 蒔田 摘田
			78	一	桑畑 楮畑 漆畑 茶畑 麻畑 見附畑
			79	一	砂畑 山畑 野畑 切替畑 燒畑 薙畑 葭畑
			80	一	鹿野畑 苧生畑 林畑 萱畑 萩畑 葭畑
			81	一	新田切添之事
			82	一	分間之事
			83	一	新林立出之事
			84	一	土地善惡之事
			85	一	村柄見捨地之事
			86	一	墓所損馬捨場之事
			87	一	地代金之事
			88	一	鋤下年季之事
			89	一	新田檢地御條目之事
			90	一	地押之事
			91	一	廻リ檢地之事
			92	一	石盛之事
			93	一	斗代之事
			94	一	大半小歩之事
			95	一	竿延之事
			96	一	田畑名目之事
			97	一	四木三草莠若始リ之事
			98	一	藺田 麻田 麦田 見附田 砂田 山田 谷田
			99	一	棚田 沼田 深田 植田 蒔田 摘田
			100	一	桑畑 楮畑 漆畑 茶畑 麻畑 見附畑
			101	一	砂畑 山畑 野畑 切替畑 燒畑 薙畑 葭畑
			102	一	鹿野畑 苧生畑 林畑 萱畑 萩畑 葭畑
			103	一	新田切添之事
			104	一	分間之事
			105	一	新林立出之事
			106	一	土地善惡之事
			107	一	村柄見捨地之事
			108	一	墓所損馬捨場之事
			109	一	地代金之事
			110	一	鋤下年季之事
			111	一	新田檢地御條目之事
			112	一	地押之事
			113	一	廻リ檢地之事
			114	一	石盛之事
			115	一	斗代之事
			116	一	大半小歩之事
			117	一	竿延之事
			118	一	田畑名目之事
			119	一	四木三草莠若始リ之事
			120	一	藺田 麻田 麦田 見附田 砂田 山田 谷田
			121	一	棚田 沼田 深田 植田 蒔田 摘田
			122	一	桑畑 楮畑 漆畑 茶畑 麻畑 見附畑
			123	一	砂畑 山畑 野畑 切替畑 燒畑 薙畑 葭畑
			124	一	鹿野畑 苧生畑 林畑 萱畑 萩畑 葭畑
			125	一	新田切添之事
			126	一	分間之事
			127	一	新林立出之事
			128	一	土地善惡之事
			129	一	村柄見捨地之事
			130	一	墓所損馬捨場之事
			131	一	地代金之事
			132	一	鋤下年季之事
			133	一	新田檢地御條目之事
			134	一	地押之事
			135	一	廻リ檢地之事
			136	一	石盛之事
			137	一	斗代之事
			138	一	大半小歩之事
			139	一	竿延之事
			140	一	田畑名目之事
			141	一	四木三草莠若始リ之事
			142	一	藺田 麻田 麦田 見附田 砂田 山田 谷田
			143	一	棚田 沼田 深田 植田 蒔田 摘田
			144	一	桑畑 楮畑 漆畑 茶畑 麻畑 見附畑
			145	一	砂畑 山畑 野畑 切替畑 燒畑 薙畑 葭畑
			146	一	鹿野畑 苧生畑 林畑 萱畑 萩畑 葭畑
			147	一	新田切添之事
			148	一	分間之事
			149	一	新林立出之事
			150	一	土地善惡之事
			151	一	村柄見捨地之事
			152	一	墓所損馬捨場之事
			153	一	地代金之事
			154	一	鋤下年季之事
			155	一	新田檢地御條目之事
			156	一	地押之事
			157	一	廻リ檢地之事
			158	一	石盛之事
			159	一	斗代之事
			160	一	大半小歩之事
			161	一	竿延之事
			162	一	田畑名目之事
			163	一	四木三草莠若始リ之事
			164	一	藺田 麻田 麦田 見附田 砂田 山田 谷田
			165	一	棚田 沼田 深田 植田 蒔田 摘田
			166	一	桑畑 楮畑 漆畑 茶畑 麻畑 見附畑
			167	一	砂畑 山畑 野畑 切替畑 燒畑 薙畑 葭畑
			168	一	鹿野畑 苧生畑 林畑 萱畑 萩畑 葭畑
			169	一	新田切添之事
			170	一	分間之事
			171	一	新林立出之事
			172	一	土地善惡之事
			173	一	村柄見捨地之事
			174	一	墓所損馬捨場之事
			175	一	地代金之事
			176	一	鋤下年季之事
			177	一	新田檢地御條目之事
			178	一	地押之事
			179	一	廻リ檢地之事
			180	一	石盛之事
			181	一	斗代之事
			182	一	大半小歩之事
			183	一	竿延之事
			184	一	田畑名目之事
			185	一	四木三草莠若始リ之事
			186	一	藺田 麻田 麦田 見附田 砂田 山田 谷田
			187	一	棚田 沼田 深田 植田 蒔田 摘田
			188	一	桑畑 楮畑 漆畑 茶畑 麻畑 見附畑
			189	一	砂畑 山畑 野畑 切替畑 燒畑 薙畑 葭畑
			190	一	鹿野畑 苧生畑 林畑 萱畑 萩畑 葭畑
			191	一	新田切添之事
			192	一	分間之事
			193	一	新林立出之事
			194	一	土地善惡之事
			195	一	村柄見捨地之事
			196	一	墓所損馬捨場之事
			197	一	地代金之事
			198	一	鋤下年季之事
			199	一	新田檢地御條目之事
			200	一	地押之事

料	43	一	隱田之事
	44	一	百菊反歩之事
資	45	一	流作場之事
	46	一	見取場之事
		一	一定見取之事
		一	屋敷見取之事
	47	一	両毛作片毛作之事
	48	一	字之事
	49	一	一筆限与唱事
	50	一	田畑町歩之文字書法之事
	51	一	一 地方員数文字書法之事
	52	一	割地之事
	53	一	耕地田面縄手根通冲通之事
		一	森林之事
		一	林改方并御林帳仕立方之事
		一	木立見立之事
		一	根伐仕方之事
		一	山林竹木仕立方之事
	54	一	御林木盜伐致たる者御仕置之事
	55	一	萱野 葭野 秣場 原地 埜地之事
	56	一	七嶋場之事
		一	塩濱之事

三ウ

	57	一	検見仕法之事
	58	一	畝引検見之事
	59	一	有毛検見之事
		一	色取検見之事
	60	一	請免居検見之事
	61	一	段免之事
	62	一	遠見検見投検見准合之事
	63	一	一々五検見之事
	64	一	木綿検見之事
		一	木綿日本江渡リシ始之事
	65	一	蠟検見之事
	66	一	五公五民之事
	67	一	定免之事
	68	一	荒地并起返之事
	69	一	田畑取箇厘取反取之事
		一	免之發之事

四ウ

五ウ

99	98	97	96	95	94	93	92	91	90	89	88	87	86	85		84	83	82	81
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一		一	一	一	一
諸國石代直段之事 <small>附タリ</small> 貫代之事	三分一銀納十分一大豆銀納之事 <small>附タリ</small> 上方八關東より式割増之事	夏成金發之事	古今租税之事	地境川瀬附寄之事	新地建立引寺之事	屋敷内新祠建立之事	往還道立替之事	新屋舖新宅取立之事	石間出石之事 <small>コウ</small>	畑田成田畑成屋敷成之事	卸山請山之事	書入田地之事	切畝歩之事	殘地之事	一 <small>附タリ</small> 半頼納之事	頼納之事	年季賣本物返之事	倍金質地之事	永代賣之事

112	111	110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	100
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
夫米夫金銀夫役之事	御傳馬宿入用米 六尺給米 御藏前入用	三役之事	高掛物之事 一 米永銀厘不尽限リ之事	一 欠米込米之事 口米口永之事 御代官諸入用米金之事 一 附タリ 甲州公納口三升口之事	一 出目米延米之事 附タリ 一 延大豆延真綿之事	五之卷 本石斗立之事	四ッ物成三ッ五分物成之事	諸國俵入之事	甲州大切小切之事	一種代之事	相場書之事	一 甲州雜穀直段之事 一 石代御定書之事 一 關東式石五斗代老石式斗五升代發之事
											〔七才〕	

124	123	122	121	120	119	118	117	116	115	114	113	
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
諸運上冥加金銀臨時納物事 附タリ 一 水車濫觴之事	一 突鯨寄鯨流鯨切鯨分一定法之事 附タリ 一 流鯨有之たる時取斗諸書付等之事 〔八才〕	一 鎬役之事 分一金銀之事	一 酒株之事 附タリ 一 近年造物御觸書事	一 池魚役 網役 網代役 鳥取役 紙船役	一 山年貢 山小物成 山役山手米永 野年貢野役米	一 野手米永 草年貢 草役米草代 茶年貢茶役	一 漆年貢 櫨年貢 松山藪林年貢 葭年貢葭代	一 萱野錢 楮油荏役 御林下草錢 河岸役池役	一 荏魚役 網役 網代役 鳥取役 紙船役	一 糠藁代之事 小入用夫錢之事 附タリ 一 百姓割合物定法之事	一 小役銀之事 荏大豆納之事	一 夫錢足前柿木役之事 一 七百元替出目之事 一 小物成浮役之事
												〔八才〕

六之卷

一 高内年々引之事

地不足 無地高 石盛違 石間 田畑成

竿違 陣屋敷 郷藏敷 神田 神佛免

伊勢屋敷 寺屋敷 堤舗 道代 江桁敷

溜井敷 井堰敷 溝敷

一 高内連々引之事

積地改方并定免内損地引方之事

一 一作引之事

永荒場 荒場 荒地 浪欠 川成

水車運上 市場運上 小漁運上 築運上
池運上 鳥札運上 高網役 鷺運上
鉄炮運上 問屋運上 油船運上 醬油屋冥加永
質屋冥加永 旅籠屋冥加永 砥石山運上
金銀 銅 鉄 鉛山
明礬 硫黄山 運上 帆別運上 川船役 小船役
室屋役 炭竈役 大工役 桶屋役 石屋役
紺屋役 鍛冶役 新田地代金
御林木并往還並木立枯等拂代 御普請殘木古鉄物等拂代
取上田畑并闕所物拂代

〔九才〕

池成 洲成 川欠 山崩 石砂入
石置 押堀 土取場 土置場 埜地成
冷水場
井料米水代米之事
惡水落江代之事
見立新田十分一被下事
田高五分以上損毛高掛リ物免除之事
一 取米五分以上損毛諸拝借免除之事
五里外駄賃之事
郷藏詰米火災定法之事
夫食貸種貸之事
一 肥代貸方之事
一 延賣之事
町在出火取斗并諸拝借之事
一 宿場出火諸拝借定法之事
一 村方出火農具代拝借并夫食種粉拝借之事
一 出火咎并火元不決時取斗之事
定助郷大助郷之事
一 加宿之事
一 掃除丁場之事
一 沓里塚始リ之事
作徳凡勘定之事

〔二〇才〕

〔九乙〕

料	137	一	名主引負并未進不納訣之事 ^取
資	138	一	七之卷
		一	郷帳發之事
		一	地方三帳之事
		一	御取箇帳之事
		一	納拂明細帳之事
		一	御勘定帳之事
		一	御證文并起合印調印之事 ^{シラヘ}
		一	郷帳并御取箇帳可差出期月之事
		一	諸帳面寸法之事
139	一	一	割附免狀之事
		一	掛札之事
140	一	一	勤方帳始リ之事
		一	諸帳面仕立方改正御定印之事 ^{附タリ}
		一	勤方帳公事出入組入方之事
141	一	一	村鑑大概帳之事
142	一	一	御勘定所役筋掛リ合之事 ^合
143	一	一	村指出明細帳之事
144	一	一	庄屋名主濫觴之事 ^{附タリ}
		一	名主給米引高并供人足遣方之事
		一	組頭百姓代之事
			二〇七
145	一	一	村役人唱之事
		一	大庄屋停止之事
146	一	一	五人組濫觴之事
		一	五人組帳前書之事 ^{附タリ}
147	一	一	私領百姓御料所之村役勤る例之事
		一	由緒百姓之事
		一	百姓席順之事 ^{附タリ}
		一	無由緒百姓帶刀御仕置之事
		一	無謂百姓苗字停止之事
		一	同上下着用停止之事
		一	江戸町人帶刀停止并町年寄由緒之事 ^{二一〇}
		一	寄特者御褒美被下苗字帶刀御免有之近例之事
148	一	一	分附家抱百姓之事
149	一	一	百姓新規商賣停止之事 ^{附タリ}
		一	享保七寅年御觸書之事
150	一	一	欠落百姓跡株之事 ^{附タリ}
		一	欠落出奔逐電詔之事
		一	欠落者尋有之事
		一	奉公人欠落并取逃之事
		一	召仕之男女欠落之事
		一	奉公人於欠落先キ惡事有之為被召捕時先主

掛り合之事
一 再欠落之事
一 欠落者為閑置者之事
一 人を殺為立退者其外科人欠落并不訴出役人咎之事
一 欠落逃散旧離等之儀伺下知書留之事
勘當旧離帳外之事
附より
一 義絶之事
一 八之卷
一 切支丹類族一件之事
附より
一 宗門改人別帳濫觸之事
一 切支丹奉行江諸届定法案文并村方届書之事
一 貞享年中御定書之事
一 切支丹取斗覺書之事
一 享保年中御書付之事
沙弥鉦打類取扱方之事
穢多非人引上ケ之事
附より
一 穢多非人歸住之事
一 穢多非人呼出方之事
一 穢多非人煙亡類納米金之事
一 長吏彈左衛門由緒并享保年中同人より品々書上

159	一 普請方之事 <small>附タリ</small>	一 九之卷	158	一 宮芝居并辻駕籠發止之事 <small>附タリ</small>	一 寺院より御料百姓直呼出之事	157	一 寺院呼出之事 <small>附タリ</small>	一 寺社地殺生之事	156	一 古跡新地差別之事	一 寺地殺生之事	155	一 非人頭車善七由緒之事	一 同品川松右衛門由緒之事	一 鎌倉右大將家より彈左衛門江下給 御朱印二十 八座并鶴岡別當より由比長吏江下文之事 御朱印二十 八座并鶴岡別當より由比長吏江下文之事
-----	----------------------------------	----------	-----	--	--------------------	-----	-----------------------------------	--------------	-----	---------------	-------------	-----	-----------------	------------------	--

料

資

- 一 鐵物寸尺目方定法之事
- 一 土石貫目積之事
- 一 材木尺通挽鋸代大工木挽杣薦人足坪掛リ
- 一 定法之事
- 一 御林木を以槌橋等普請目論見方之事
- 一 末口物太リ之事
- 一 蛇籠坪詰歩當之事 〔二四才〕
- 一 目論見帳差出ス期月之事
- 一 國役普請之事
- 一 御手傳普請之事
- 一 美濃國堤方間竿之事

拾之卷

160

一

郷村請取渡之事

- 一 郷村請取済たる上村方より可取書物之事 附タリ
- 一 御代官所引渡之節先支配より可請取諸書物之事

之事

一 郷村受取之上村方江申渡之事

一 御傳馬宿請取之上取斗之事 〔二四才〕

一 郷村諸事吟味心得之事

一 村々高札并浦高札之事

161

一

分郷之事

165 164 163 162

- 一 市場之事
- 一 河岸場之事
- 一 御巢鷹山之事
- 一 鉄炮村方江貸渡證文并届書之事 附タリ
- 一 鉄炮之儀享保二百年御書付并御代官より書上之事

一 同譲渡之事

一 同御関所通り手形并船積之事

一 隠鉄炮所持之者御仕置之事

一 鳥銃濫觴之事 〔二五才〕

166

一

諸國御関所女通手形之事 附タリ

一 御関所地名并關守之事

一 通手形出所之事

一 關所破御仕置之事

一 御関所之儀二付諸事心得之事

一 囚人差通節通り證文之事

地方凡例録惣目録大尾

〔二五才〕

あとがき

祠部職掌類聚・祠部職掌雜纂の整理に際して、偶々数冊の目録を発見し、そのうち付1を手掛かりに作業を進めたことは、前述した通りである。しかし、この目録がどのような性格を有するものであるのかは、全く明らかにできなかった。前稿を発表した直後に、かねて気にかけていた静嘉堂文庫と国立国会図書館の調査に赴いた。その結果、静嘉堂文庫の旧大河内家所蔵資料群が、この青山会文庫本と密接な関係を有することを、静嘉堂文庫所蔵の『祠部職掌雜纂惣目録』二部の内容を実見して確認できた。次号でこれらを紹介したい。国会図書館所蔵の寺社奉行関係資料については、江戸幕府引継文書の一つとして、すでにマイクロフィルム化されている。これらと青山会文庫本、静嘉堂文庫本との関係についても今後の課題である。

付2は、21の内訳を示す。御触書天保集成・寛曆集成・天明集成を取り合わせたことは、目録自体には表記していないが、各所に見られた空白の行が、取合わせを示している。念のために、今回の翻刻では表記を省略した各一行分の空白の位置を示してみる。本来、上欄の番号及び各表題は各面五行で、下

欄は上欄の表題に対応して双行で示されている。上欄の行数で、空白の行の位置を示す。

一ウ	第一行	3と4の間	寛保集成から寛曆集成へ
二ウ	第五行	12と13の間	寛保集成から寛曆集成へ
四ウ	第三行	24と25の間	寛保集成から寛曆集成へ
五オ	第五行	29と30の間	寛保集成から寛曆集成へ
六ウ	第一行	38と39の間	寛保集成から寛曆集成へ
七ウ	第二行	47と48の間	寛保集成から寛曆集成へ
八ウ	第二行	55と56の間	寛保集成から寛曆集成へ
九ウ	第四行	64と65の間	寛保集成から寛曆集成へ
一〇ウ	第三行	70と71の間	寛保集成から寛曆集成へ
一一ウ	第二行	76と77の間	寛保集成から寛曆集成へ
一二オ	第五行	81と82の間	寛保集成から寛曆集成へ
一二ウ	第五行	84と85の間	寛保集成から寛曆集成へ
一三ウ	第二行	88と89の間	寛保集成から寛曆集成へ
一四ウ	第三行	95と96の間	寛保集成から寛曆集成へ
一五ウ	第二行	102と103の間	寛保集成から寛曆集成へ
一六ウ	第二行	109と110の間	寛保集成から寛曆集成へ
一七オ	第五行	115と116の間	寛保集成から寛曆集成へ
一八ウ	第五行	127と128の間	寛保集成から寛曆集成へ

料

資

二〇ウ 第四行 142と143の間 寛保集成から寶曆集成へ
 二二才 第四行 154と155の間 寛保集成から寶曆集成へ

以上の通りである。いずれも同じ巻の中で、寛保集成から寶曆集成に移る時に、その間に一行の空き行を入れたものである。例外は9と10の間、17と18の間、51と52の間であり、空白の行が見られない。天明集成は巻四一以降にまとめて加えられているので、同じ巻のなかで寶曆集成から天明集成へという箇所は全く見られず、したがってこの空白行という表現形式は見られない。本来、原本には寛保集成あるいは寶曆集成といった名称が一切付されず、ただ「御触書」とのみ記されているためであろう。この点は、次の付3にも見られる若干の混乱の原因である。

付3は、どのような趣旨の目録か、当初判然としなかったが、やはり寛保集成・寶曆集成・天明集成と照合した結果、それらの目録を連ねたものと判明した。本稿で示した通りである。各所の「不見」の貼紙については不明である。

これらの祠部職掌類聚21として収められている御触書集成は静嘉堂文庫本の『雑纂惣目録』には見られない、青山会文庫本独自のグループである。敢えて名称にこだわれば、大河内輝和

の編纂になる『雑纂』との関係で、現存する大河内家本のなかでは『雑纂』一一五冊に対して、『類聚』はわずかに二八冊であることを考え合わせても、留意すべき点であろう。

また青山会文庫本御触書集成の原本究明および他本との比較検討も、今後の課題である。付2の表題「祠部」に注目すると、寺社奉行所備え付けの本を転写したのであろうか。

付4は、上記三冊とは性格を異にするが、体裁が仮製本のままで、他の88に属する諸冊とは体裁を異にしているため、他の目録と同様の扱いをしたものである。すでに数種の刊本が見れるが、書写による流布本については多数あるものの、そのうち当初の原本に近いものについての検討は、あまり進められていないように見受けける。これも今後の検討課題であろう。

また『地方凡例録』の普及・流布過程についていえば、本書の作成を命じた大河内輝和自身が、例えば同僚たる寺社奉行や奏者番である大名たちに本書を積極的に紹介した可能性も考えられる。同書については、この青山会文庫には『類聚』の三組以外にも、さらに『類聚』に含まれぬ一組があった。この写本群のあり方からも示唆されるのではなからうか。これまた今後の検討課題としておきたい。